

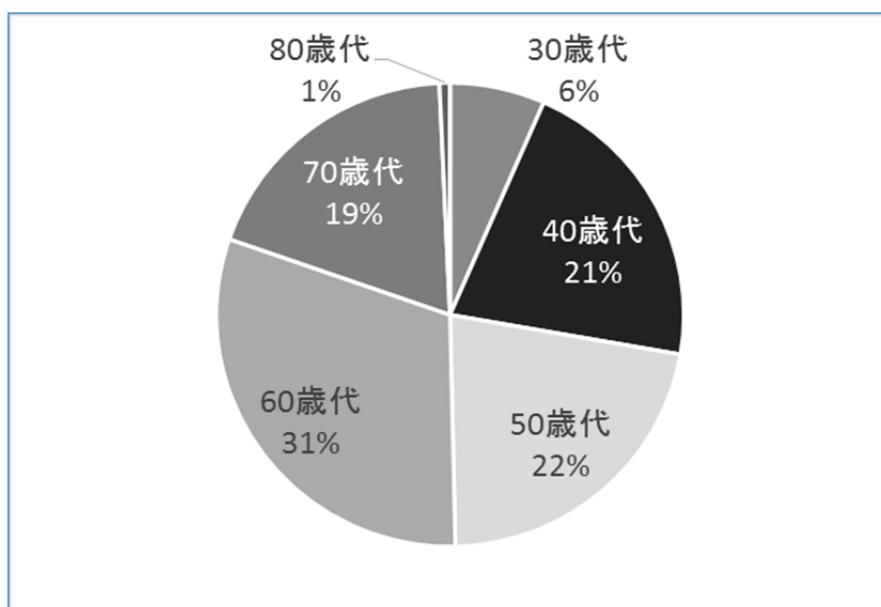
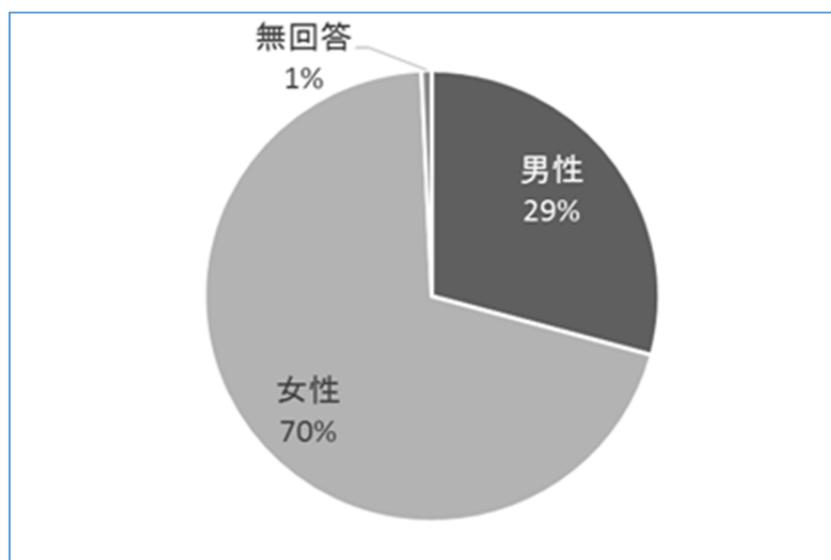
3 事業実施内容

3.1 住民買い物調査

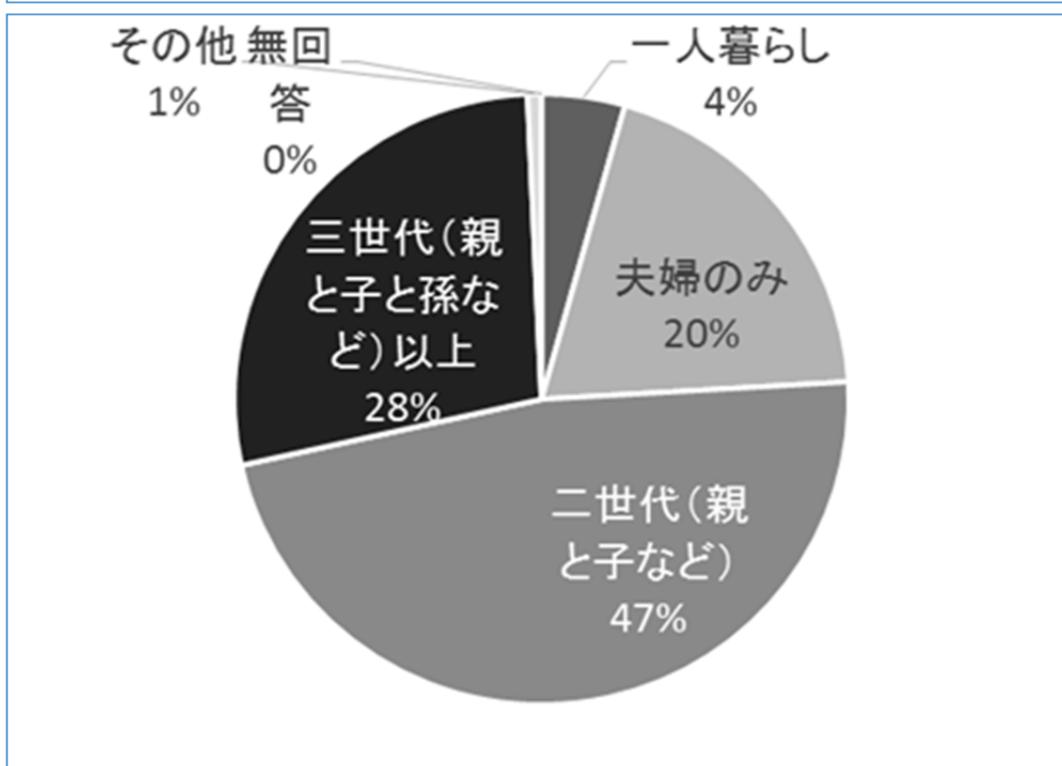
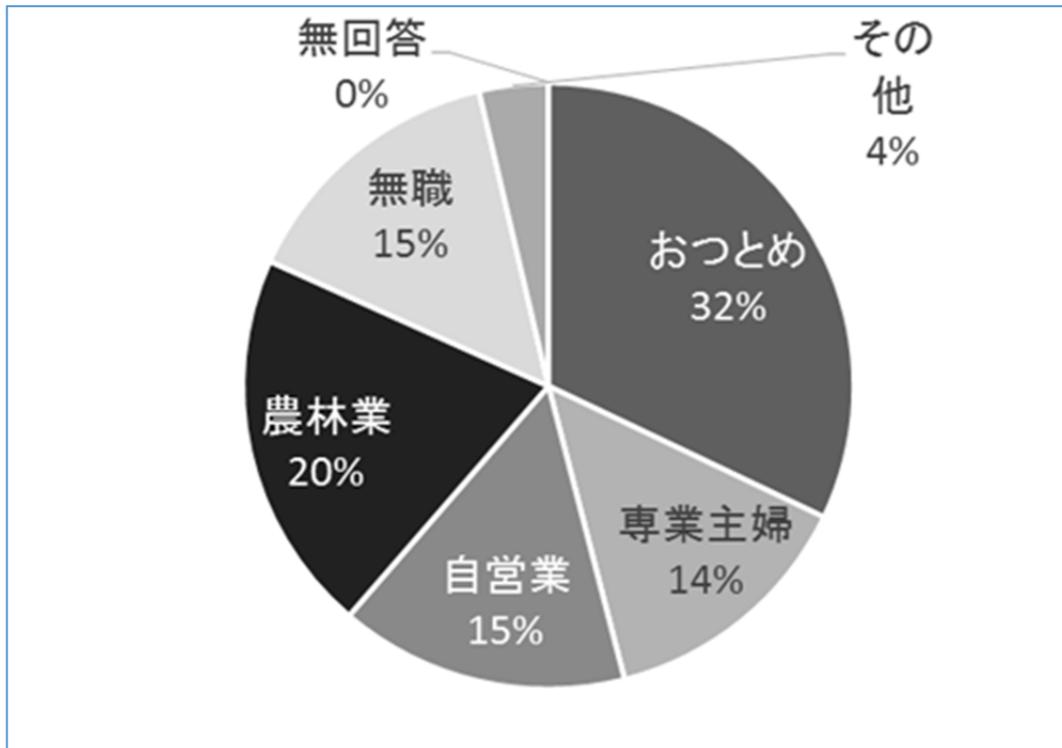
調査期間	平成 28 年 9 月上旬から 9 月末日まで
調査方法	郵便局「タウンプラス」により、村内 500 世帯へ配布。回収は商工会への持参。
回収数	137 通

➤ アンケート結果

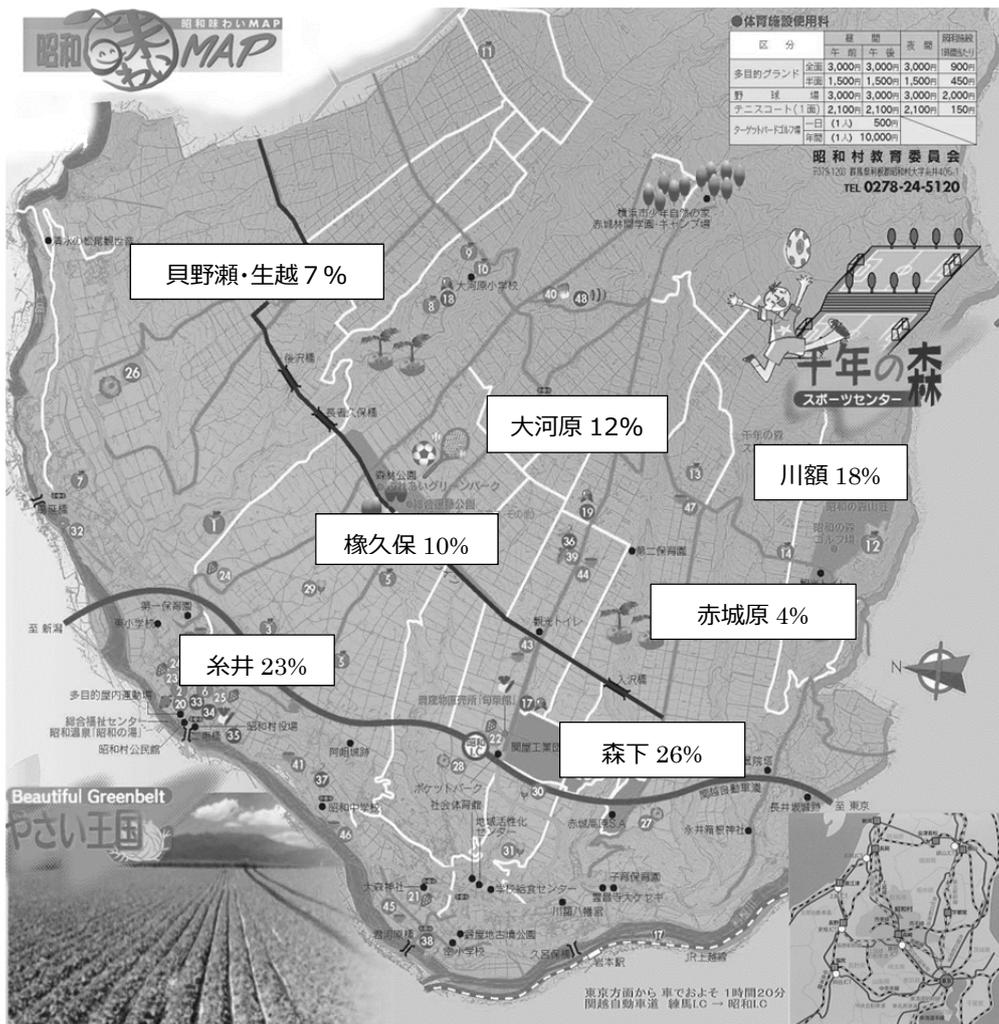
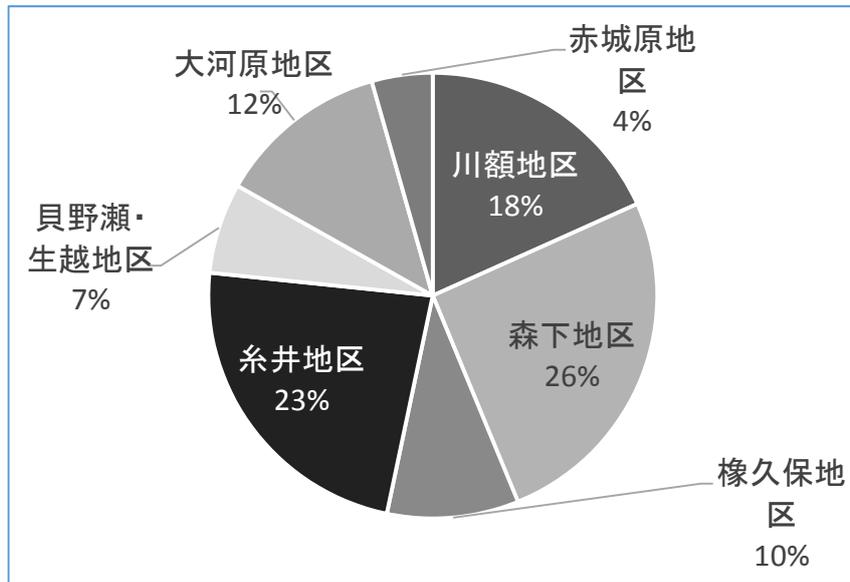
回答者を性別で見ると、男性 29%、女性 70%であった。年代別に見ると、60 歳代が 31%と最多であり、50 歳代が 22%、40 歳代が 21%、70 歳代が 19%となっていた。なお、20 歳代以下及び 90 歳以上からの回答は得られなかった。



回答者の職業を見ると、「おつとめ」が32%と最多であり、「農林業」が20%、「自営業」及び「無職」がともに15%、「専業主婦」が14%となっている。家族構成について見ると、「二世代（親と子など）」が47%と半数近くを占めており、「三世代（親と子と孫など）以上」が28%、「夫婦のみ」が20%と続いている。

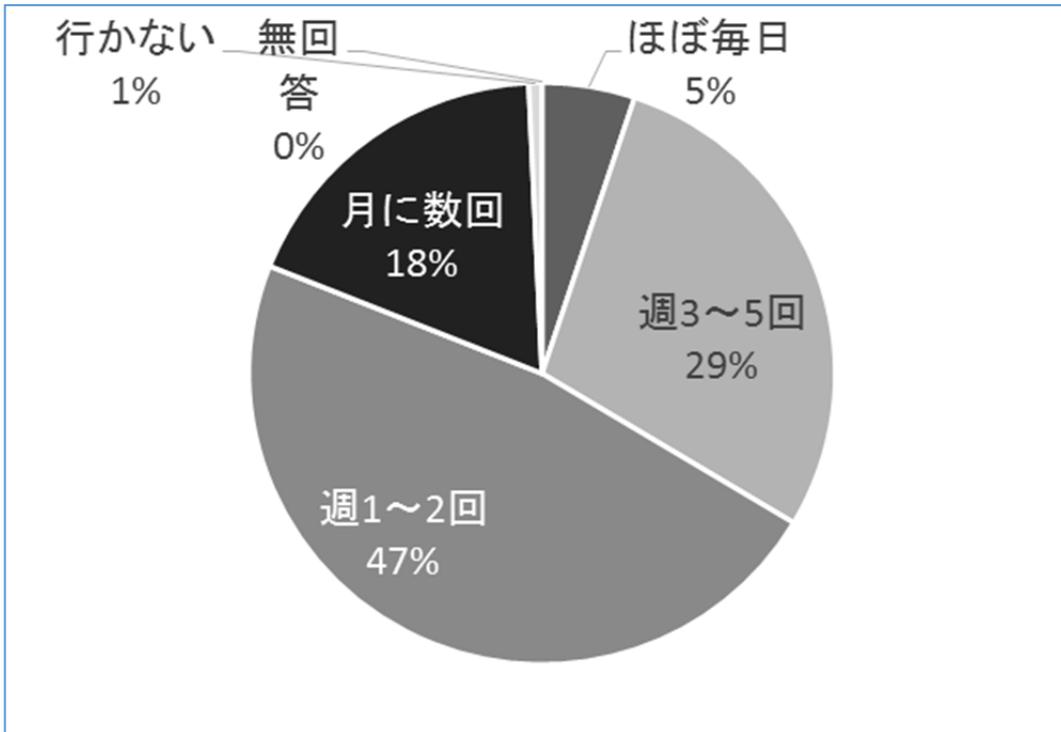


回答者の居住地を見ると、森下地区が26%で最も多く、次いで、糸井地区が23%、川額地区が18%、大河原地区が12%、椽久保地区が10%である。

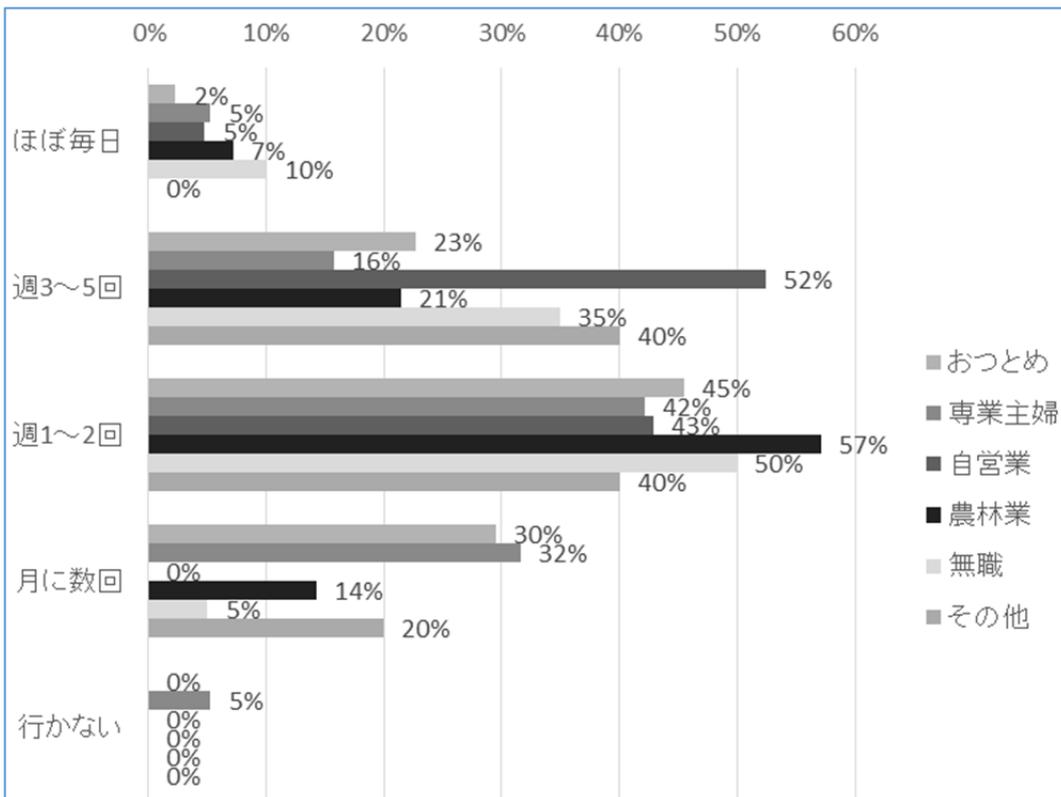


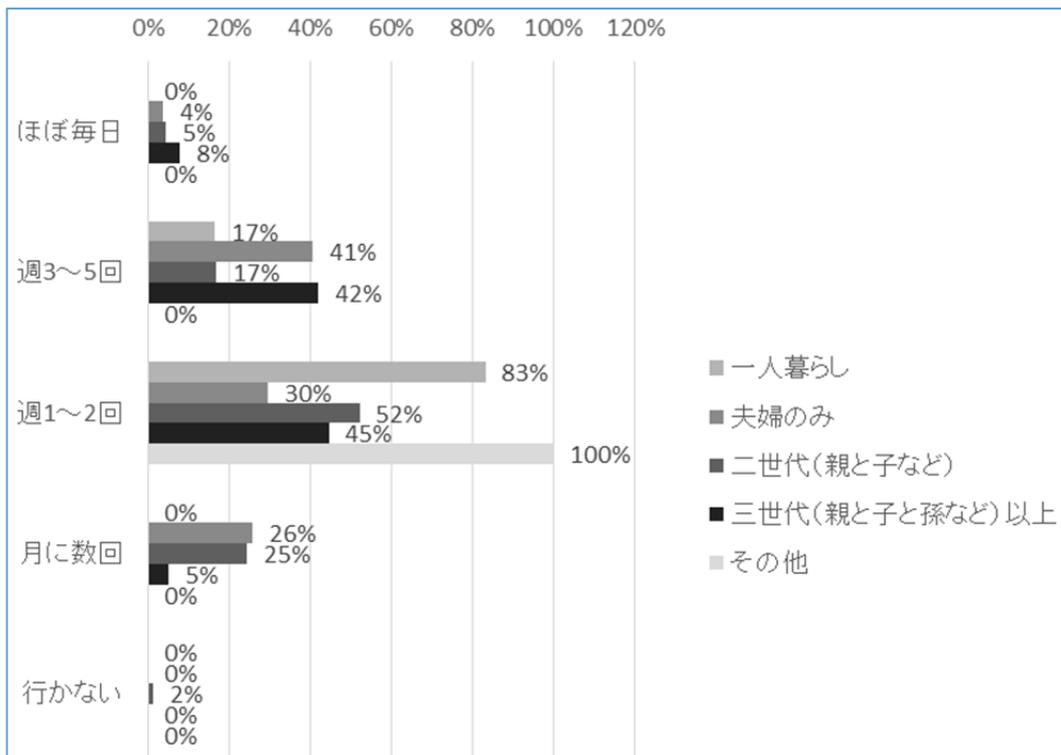
➤ 村内での買い物頻度

村内での買い物の頻度を見ると、「週 1～2 回」が 47%と半数近くを占めており、次いで「週 3～5 回」が 29%、「月に数回」が 18%となっている。



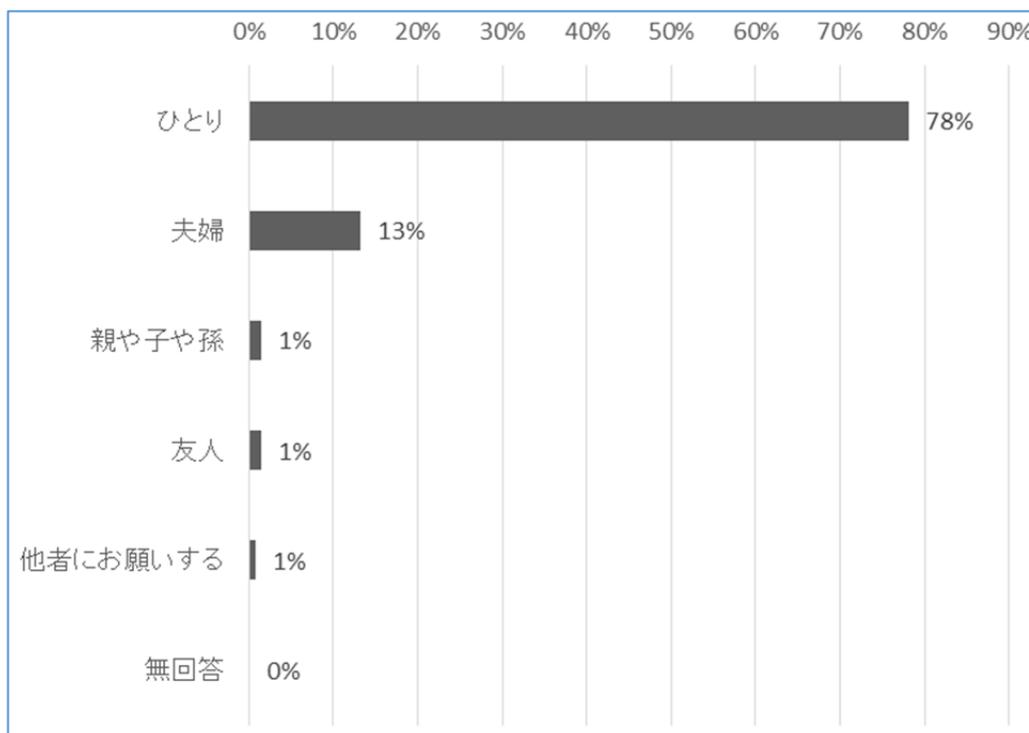
職業別で見ると、「週 3～5 回」では「自営業」が 52%と突出して多く、家族構成別で見ると、「一人暮らし」は「週 1～2 回」が 83%と、他の家族構成よりも高い傾向が見受けられた。

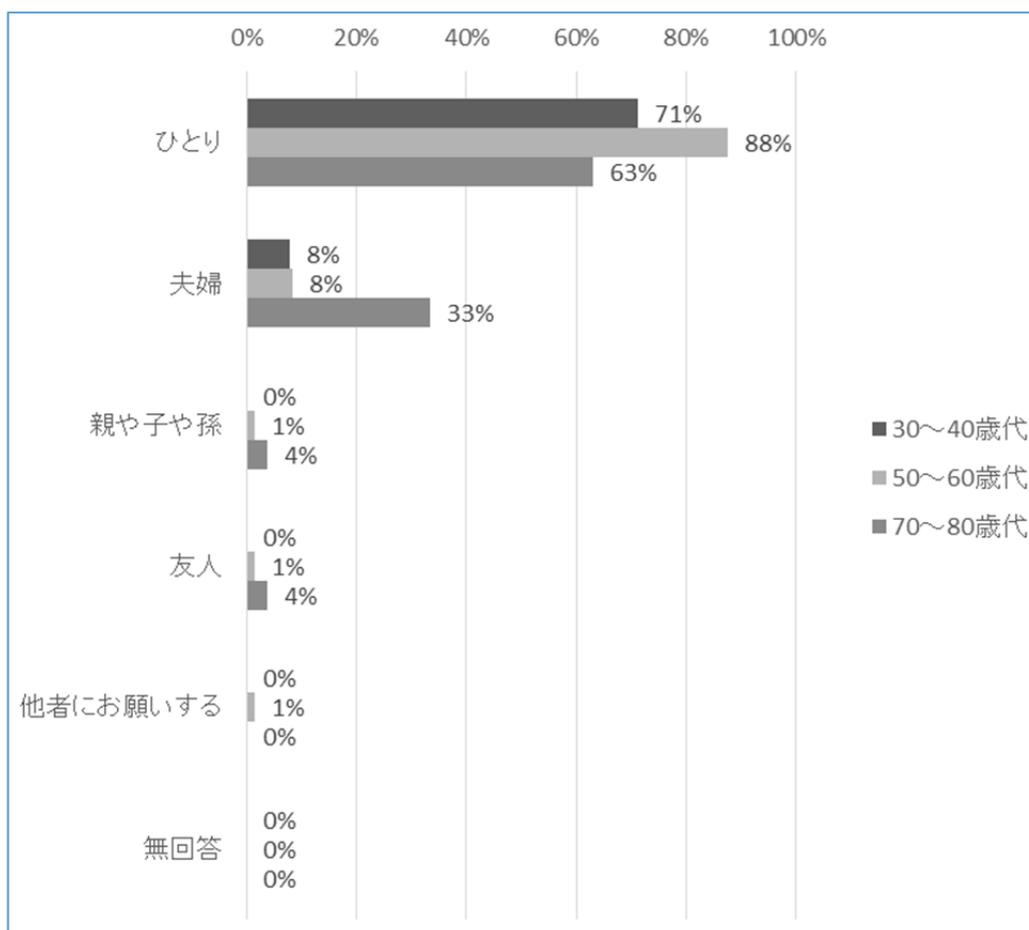




➤ 買い物の同行者

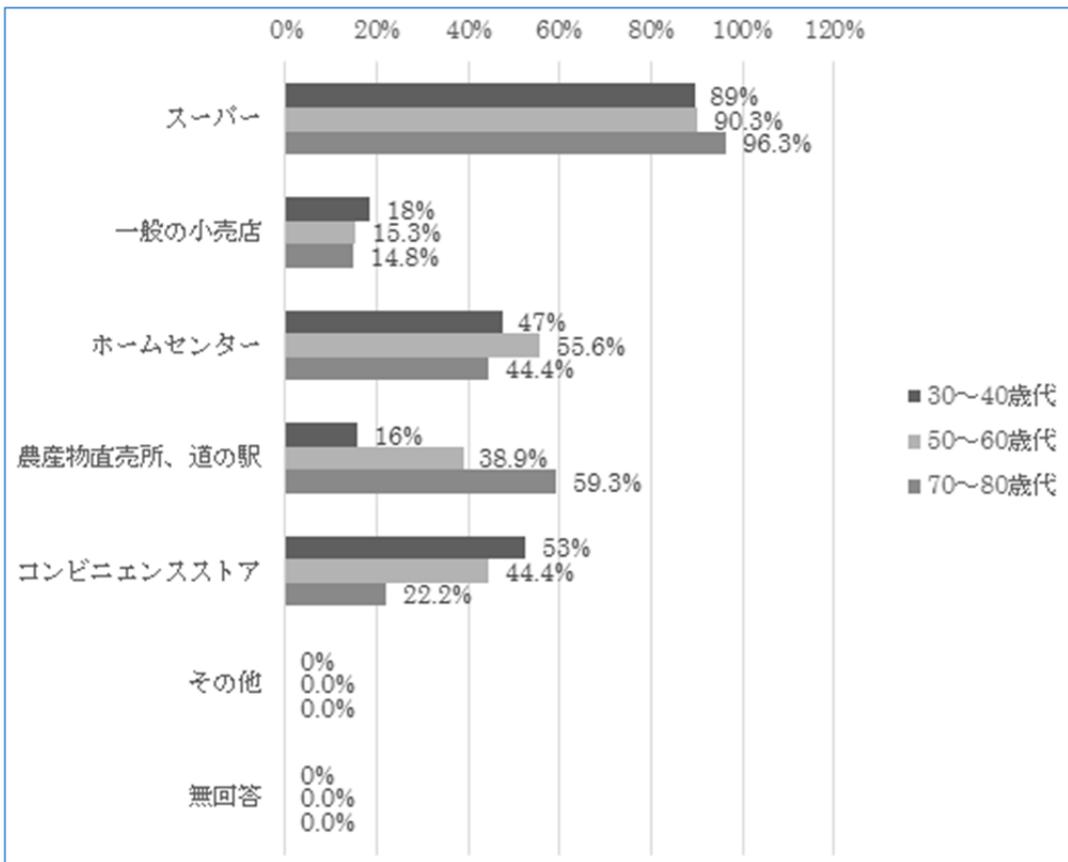
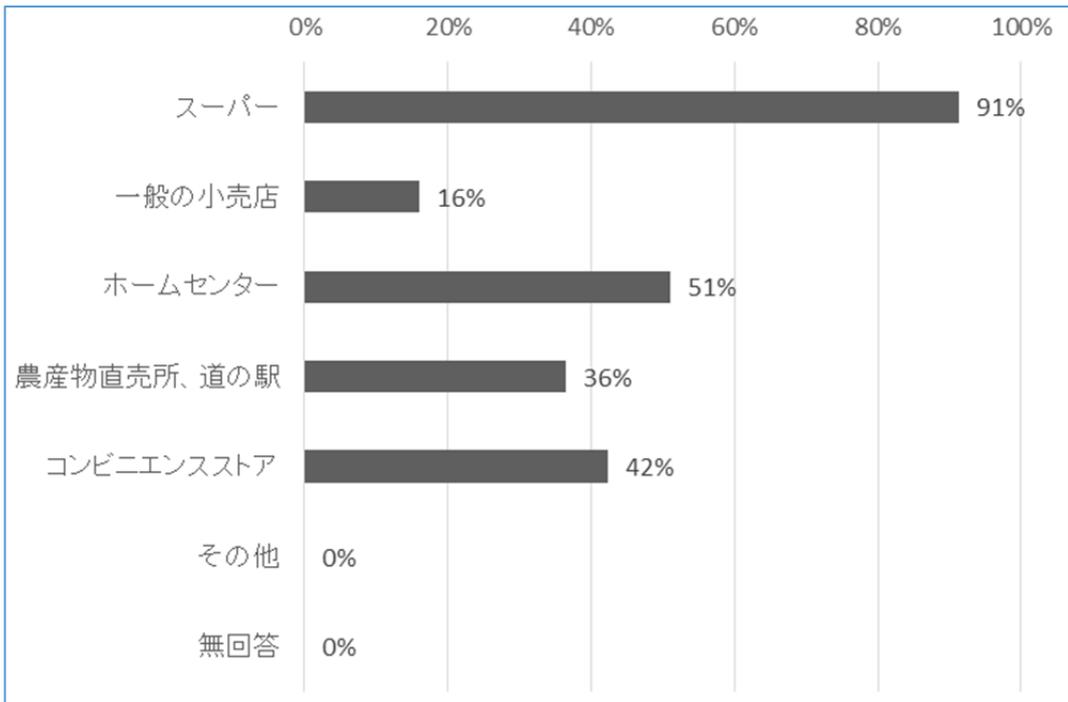
日頃の買い物には誰と行くか尋ねた結果、「ひとり」が78%であり大半を占めていた。また、年齢別に見ると、70~80歳代では「ひとり」の割合が他の年代に比べて少なく、「夫婦」が多い傾向が認められた。



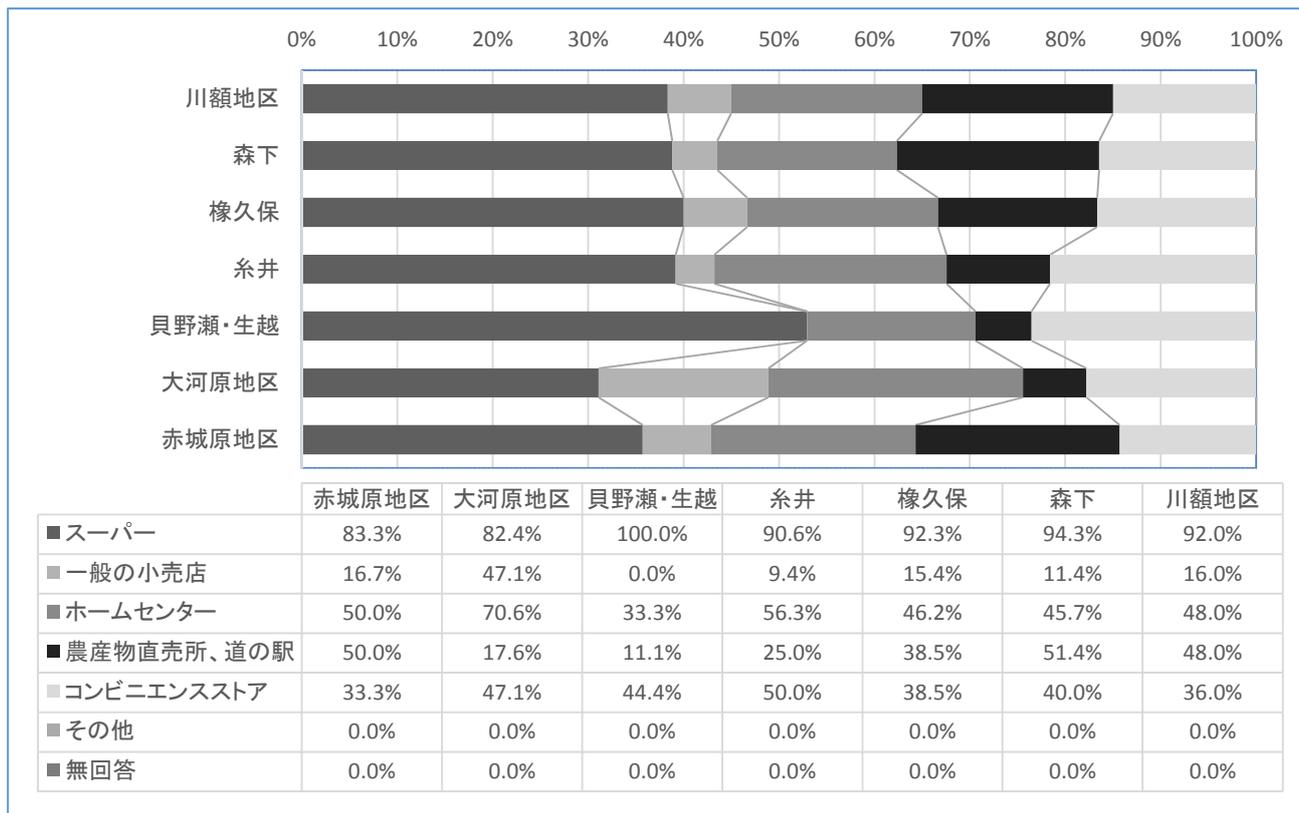


➤ 村内での買い物場所

「スーパー」が 91% で最多となっており、次いで、「ホームセンター」が 51%、「コンビニエンスストア」が 42%、「一般の小売店」が 16% であった。また年代別に見ると、「スーパー」はすべての年代で高いが、70~80 歳代は「農産物直売所、道の駅」が多い反面、「コンビニエンスストア」は低くなっていることが分かる。



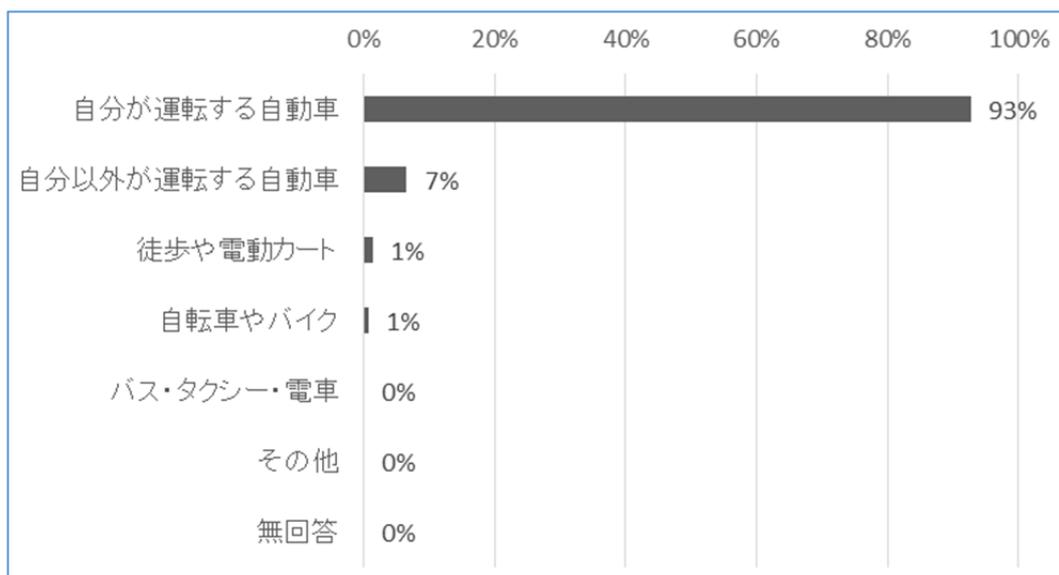
地区別に見ると、「スーパー」は貝野瀬・生越が最も高く、大河原地区は低くなっている。なお、大河原地区は「一般の小売店」が地域別では最も高い。

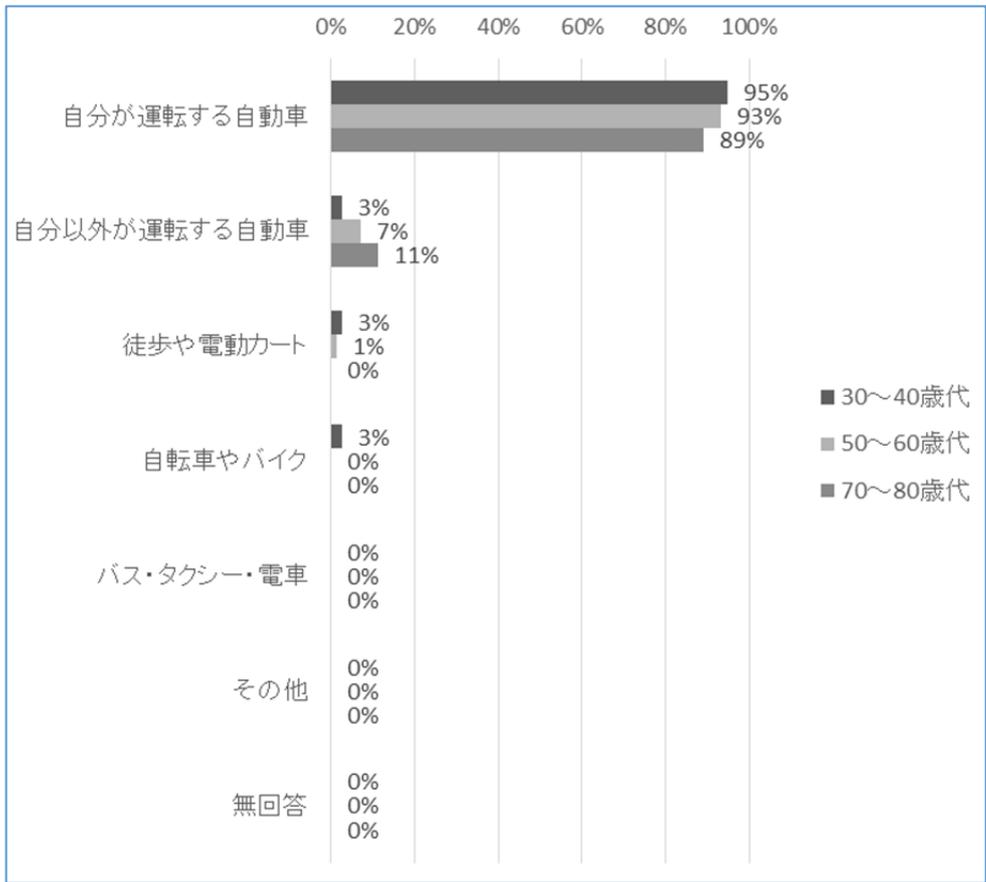
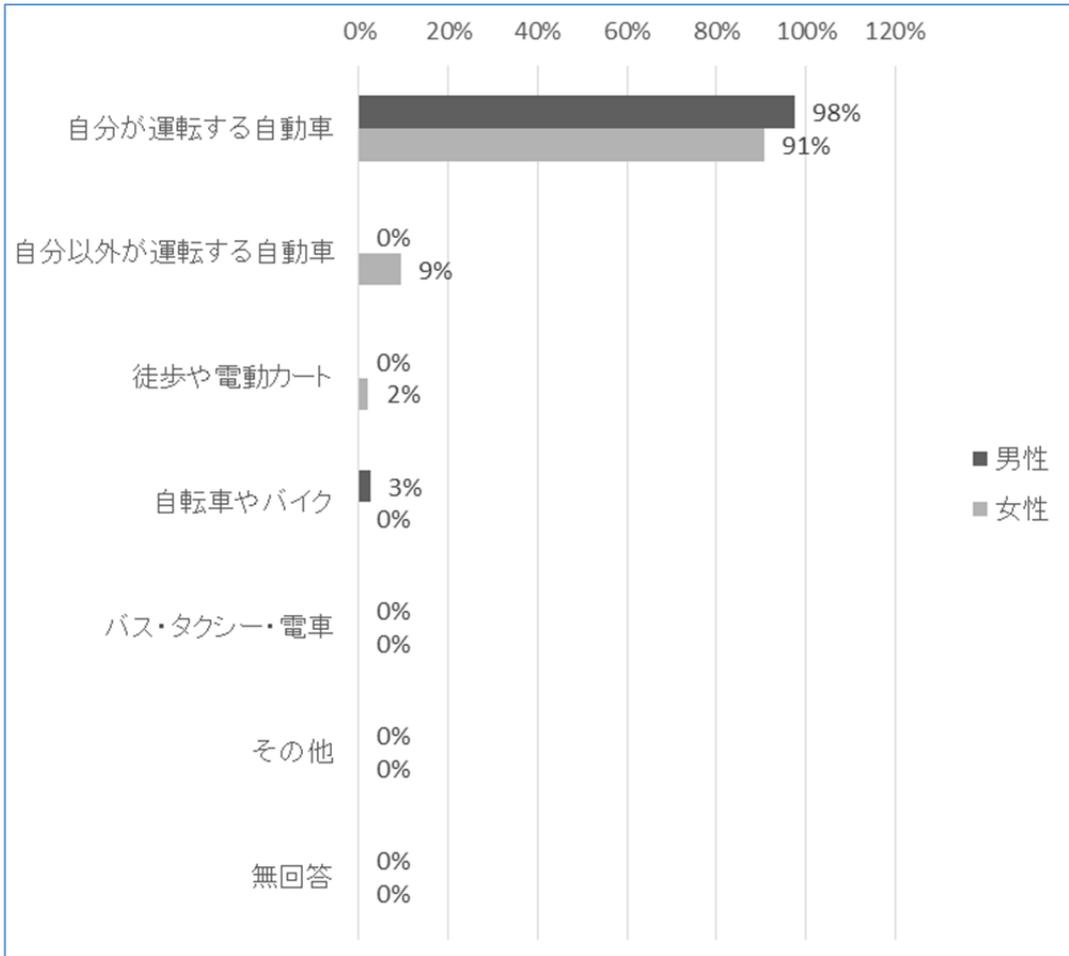


➤ 買い物場所への移動手段

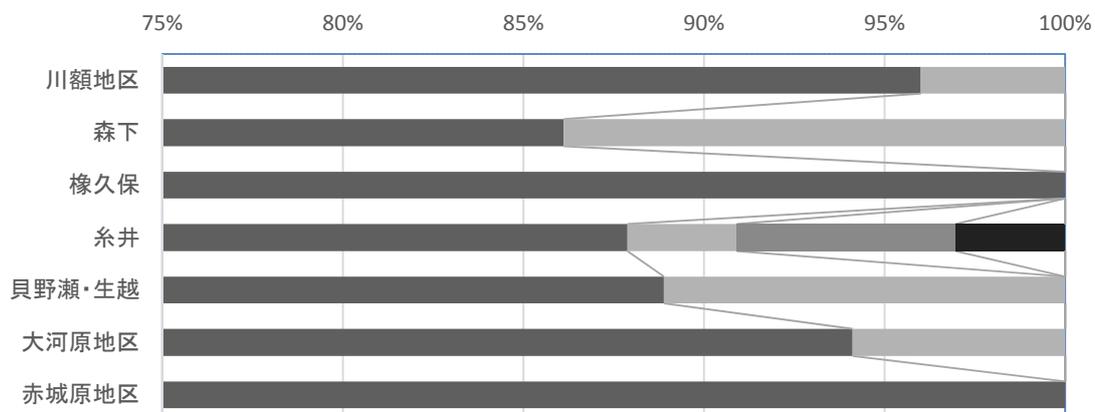
「自分が運転する自動車」が93%、次いで「自分以外が運転する自動車」が7%であり、「バス・タクシー・電車」といった公共交通機関の利用者はいなかった。性差を見ると、「自分以外が運転する自動車」は、男性が0%であったのに対して、女性は9%であった。

また年齢別に見ると、年齢が上がるのに従って「自分が運転する自動車」の割合が減少し、その反面、「自分以外が運転する自動車」の割合が増える傾向が認められた。





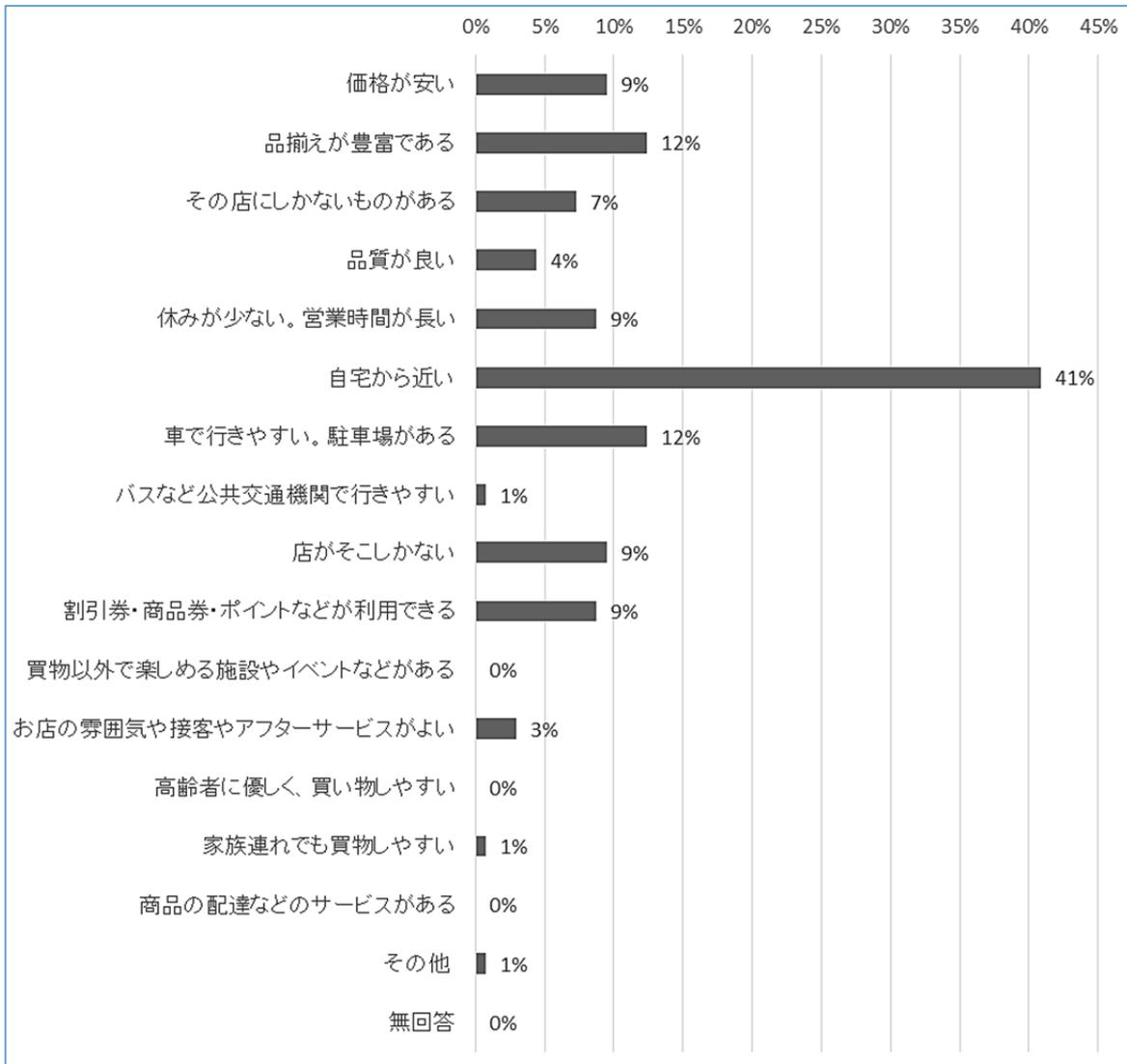
地区別に見ると、「赤城原地区」と「椽久保地区」は自分が運転する自動車が100%であるが、「糸井地区」においては徒歩や自転車への回答もわずかではあるがあがっている。



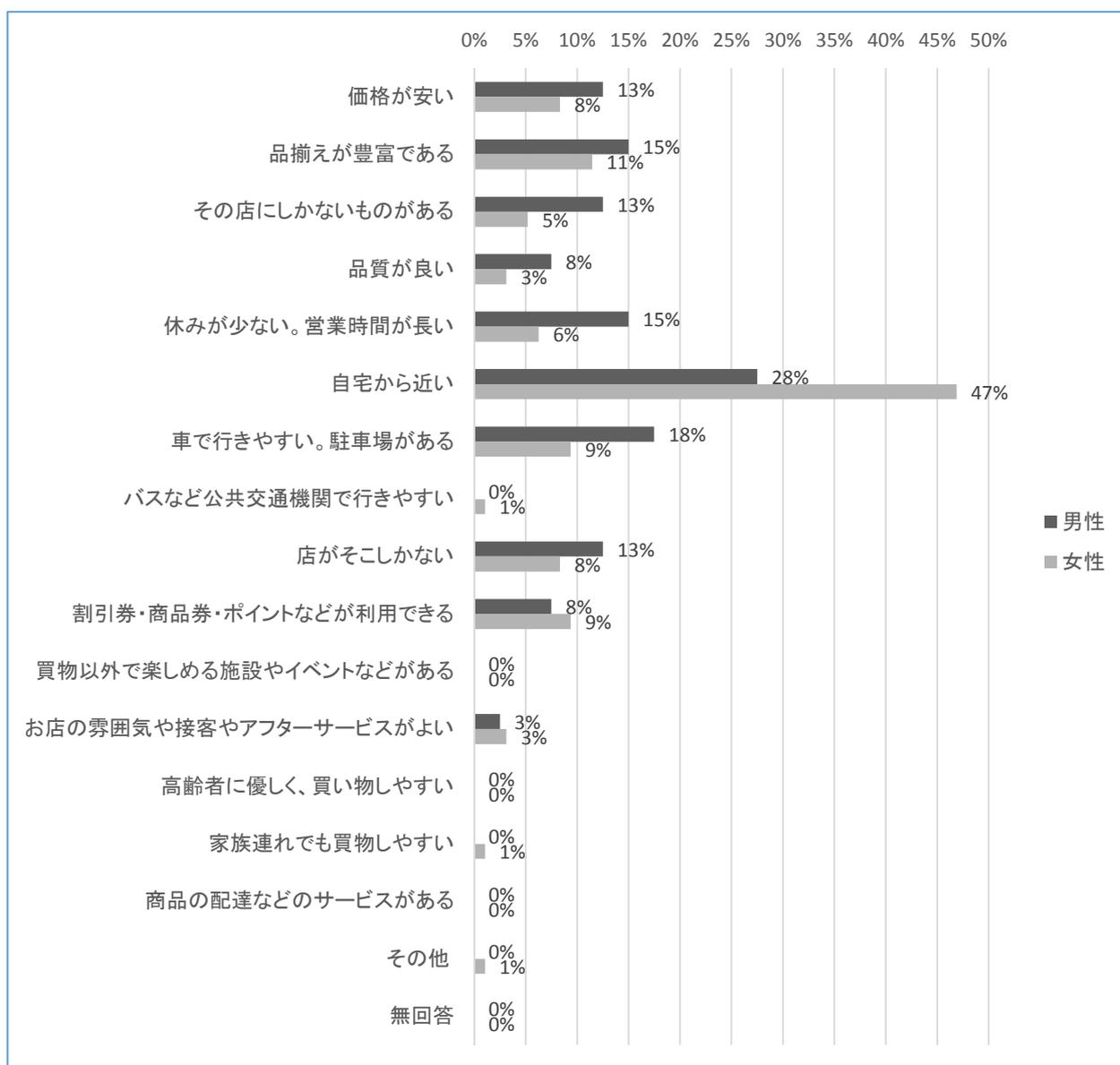
	赤城原地区	大河原地区	貝野瀬・生越	糸井	椽久保	森下	川額地区
■ 自分が運転する自動車	100.0%	94.1%	88.9%	90.6%	100.0%	88.6%	96.0%
■ 自分が以外が運転する自動車	0.0%	5.9%	11.1%	3.1%	0.0%	14.3%	4.0%
■ 徒歩や電動カート	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%
■ 自転車やバイク	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%
■ バス・タクシー・電車	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
■ その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
■ 無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

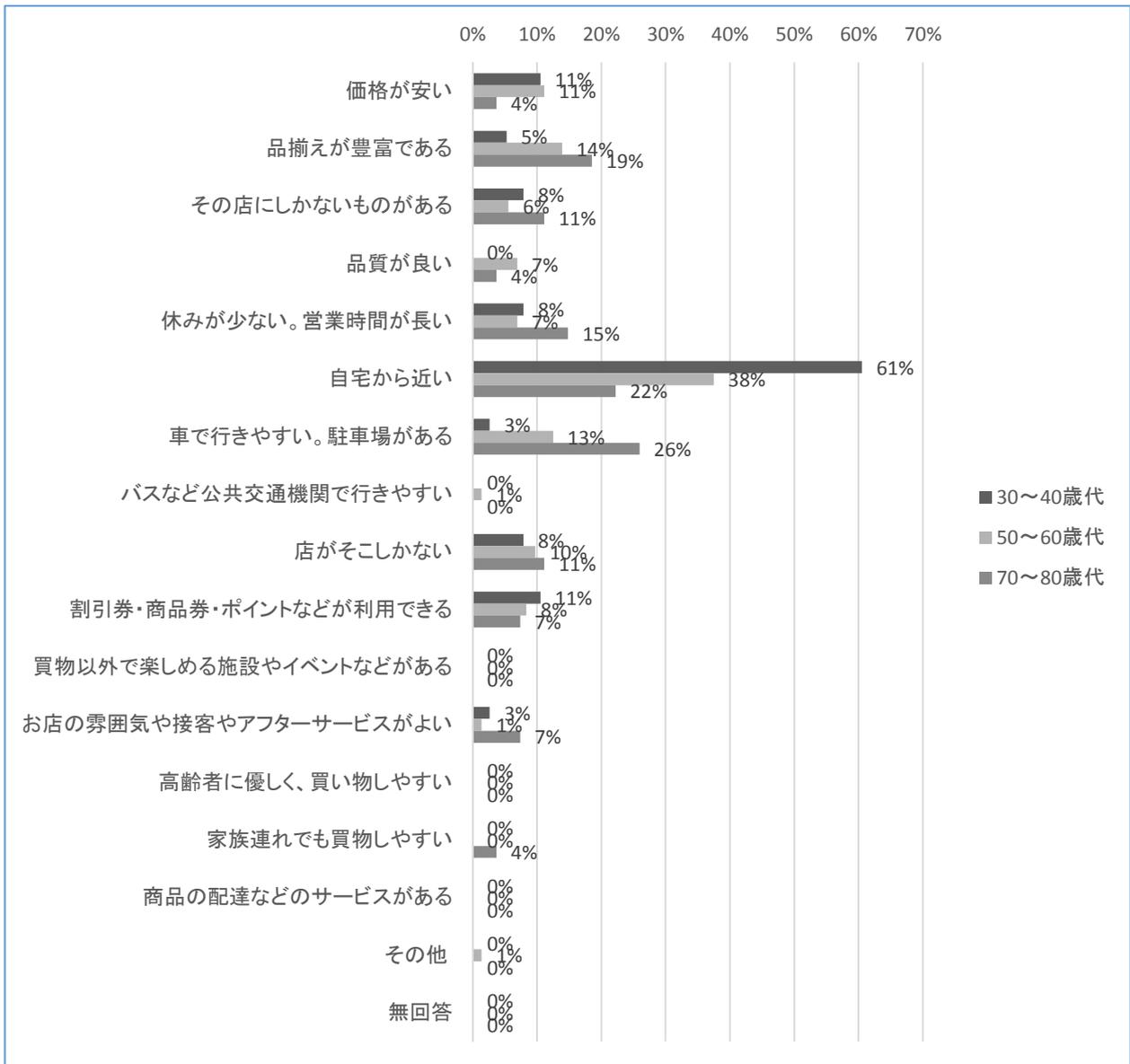
➤ お店選びで重視すること

村内でのお店選びで重視することについて尋ねた結果、「自宅から近い」が41%と他の回答と比べて突出して高いことが分かる。次いで多いのが、「品揃えが豊富である」「車で行きやすい、駐車場がある」でそれぞれ12%となっており、「価格が安い」は9%、「品質が良い」は4%にとどまった。

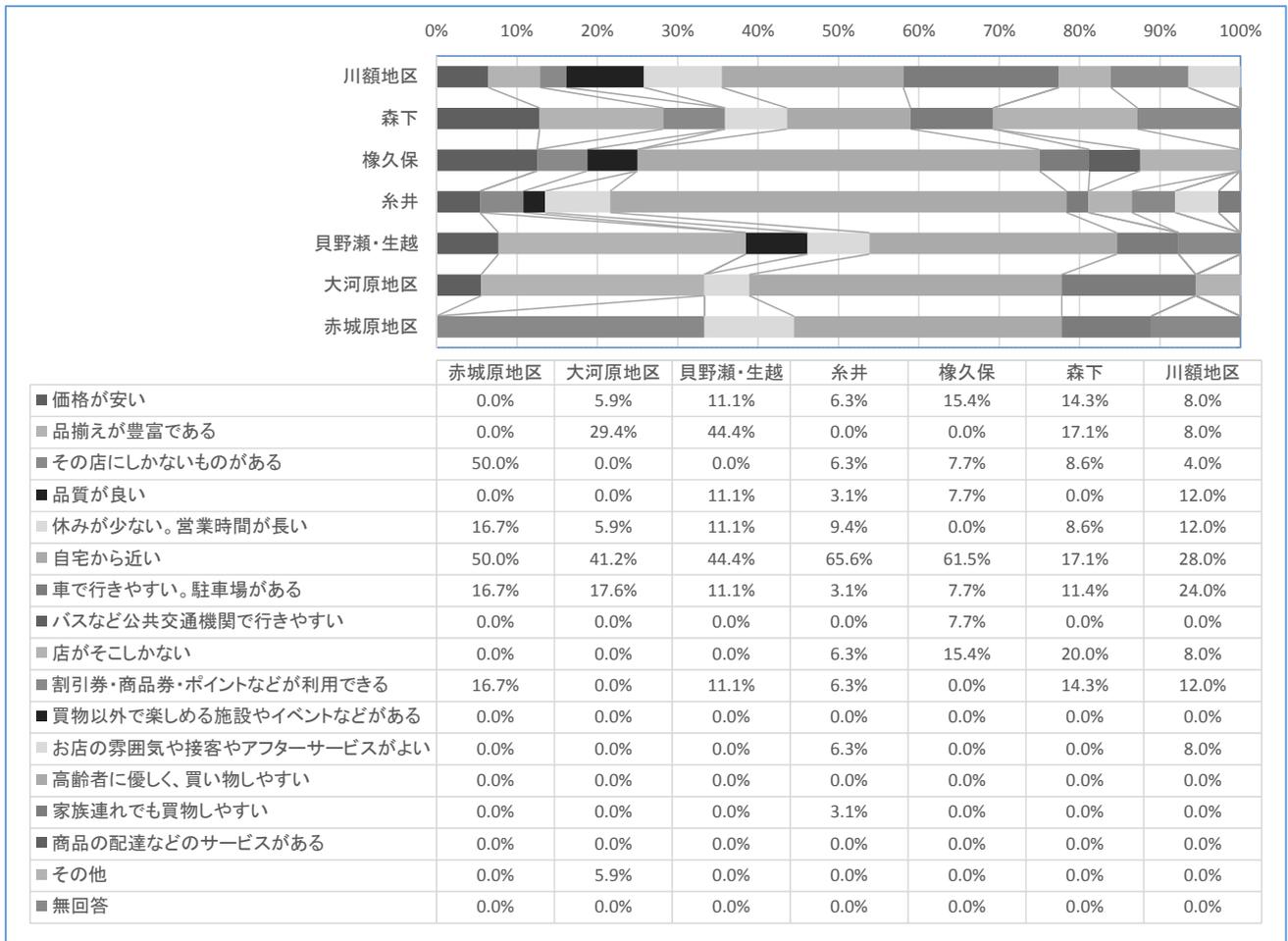


性差を見ると、「自宅から近い」との回答は女性の方が多くなっているが、年代で見ると、年齢が高くなるにつれて、「自宅から近い」という回答は低くなっており、それに代わり「車で行きやすい、駐車場がある」の割合が高くなっていることが確認される。



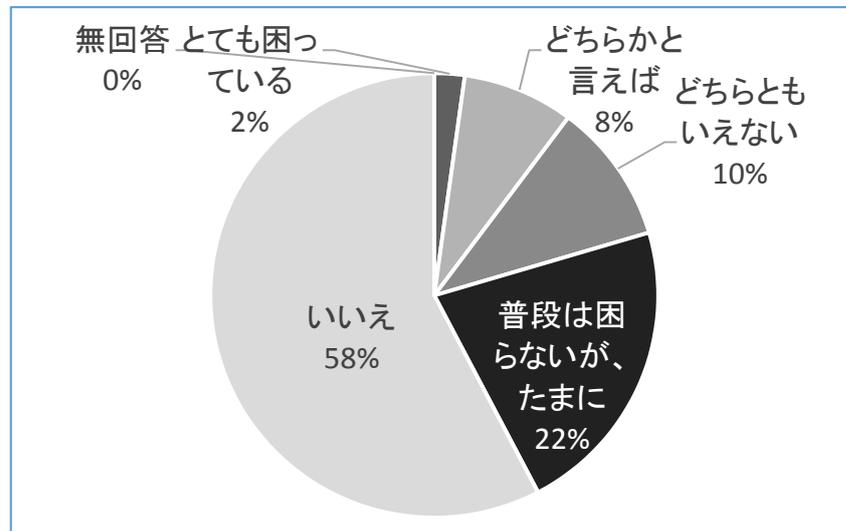


地区別で見ると、「糸井地区」は自宅から近いを選択する割合が高いが、川額地区・森下地区は回答にバラツキが見られる。

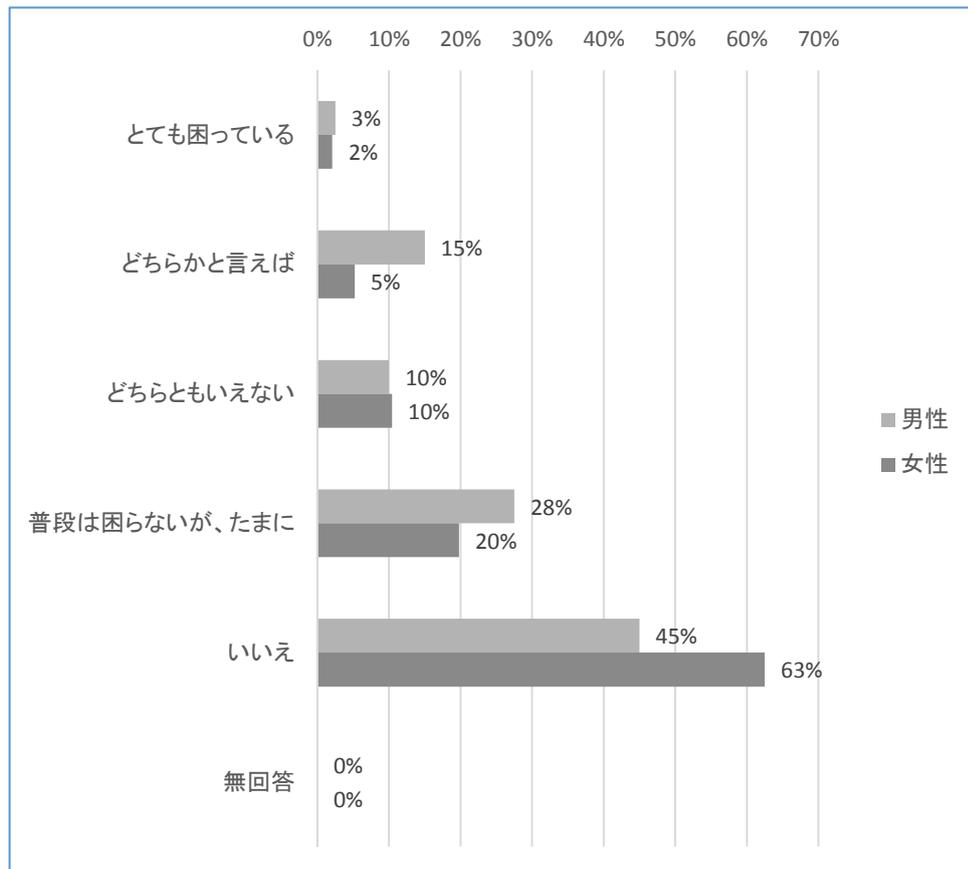


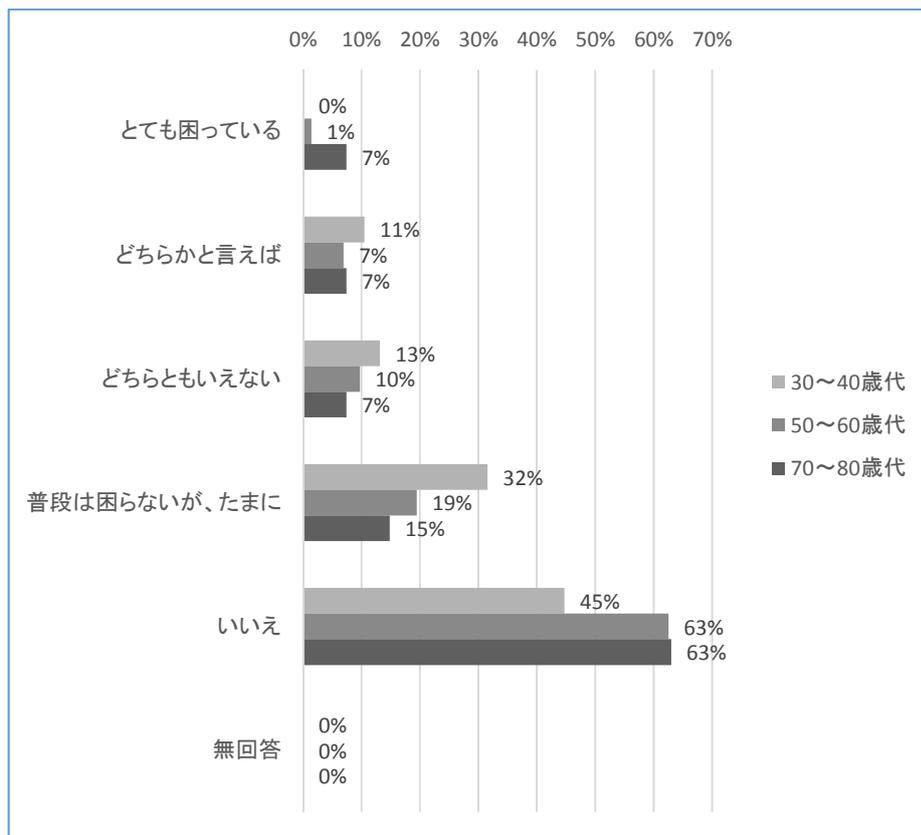
➤ 買い物での困り毎

現在、買い物で困っているか尋ねた結果、「いいえ。特に困っていません」が過半数の58%であり、「普段は困らないが、たまに困ることがあります」（22%）、「どちらかと言えば」（10%）を引き離した。

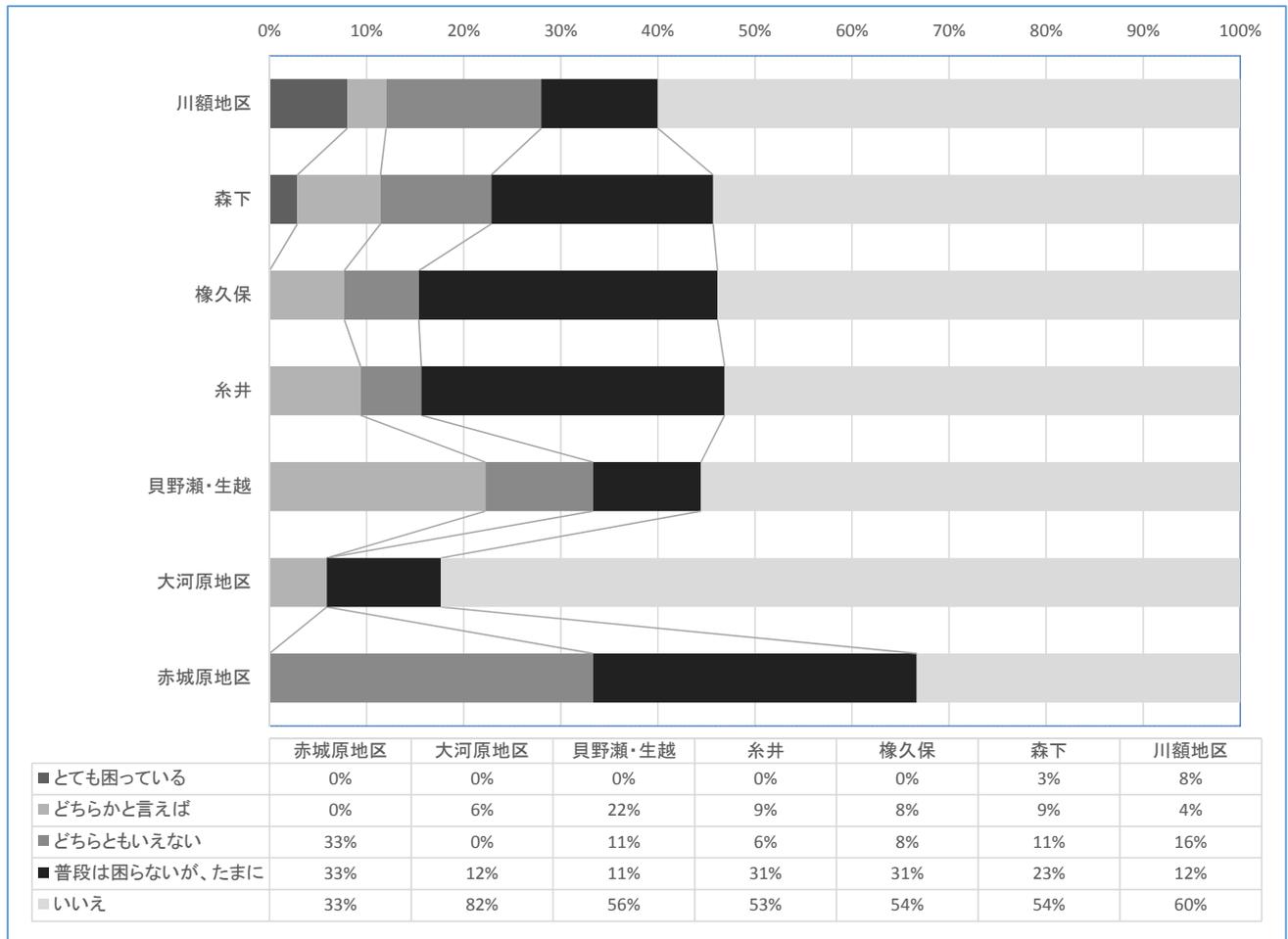


性差を見ると、男性の方が「いいえ」の回答が低く、家族構成別で見ると、一人暮らしで「どちらかと言えば、困っています」との回答が若干多くなっている。また、「とても困っている」は年代別では70～80歳代が多い。



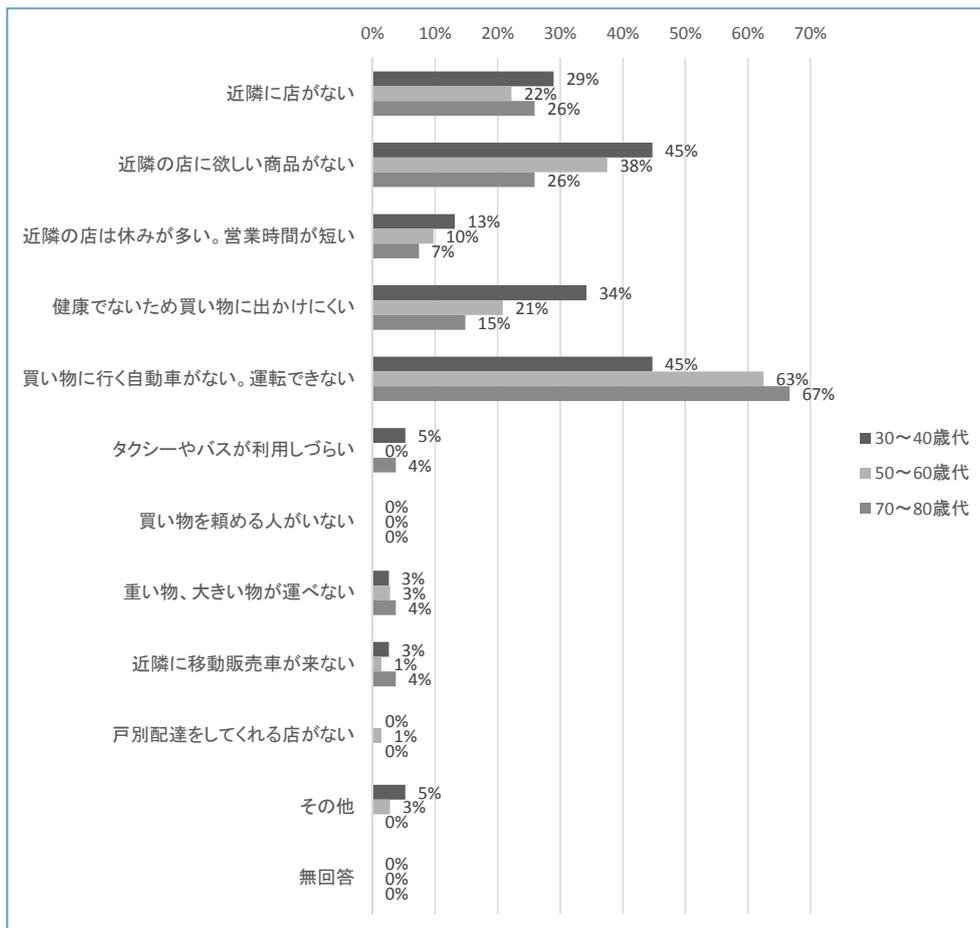
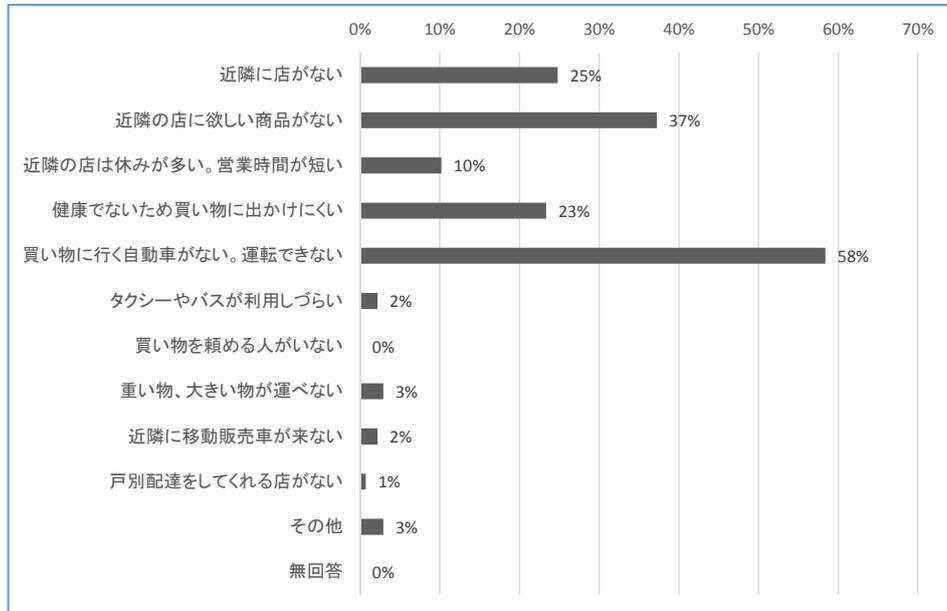


地区別に見ると、「とても困っている」「どちらかといえば」を合わせると、貝野瀬・生越地区が最も多く、大河原地区は「困っていない」という回答が最も多い。

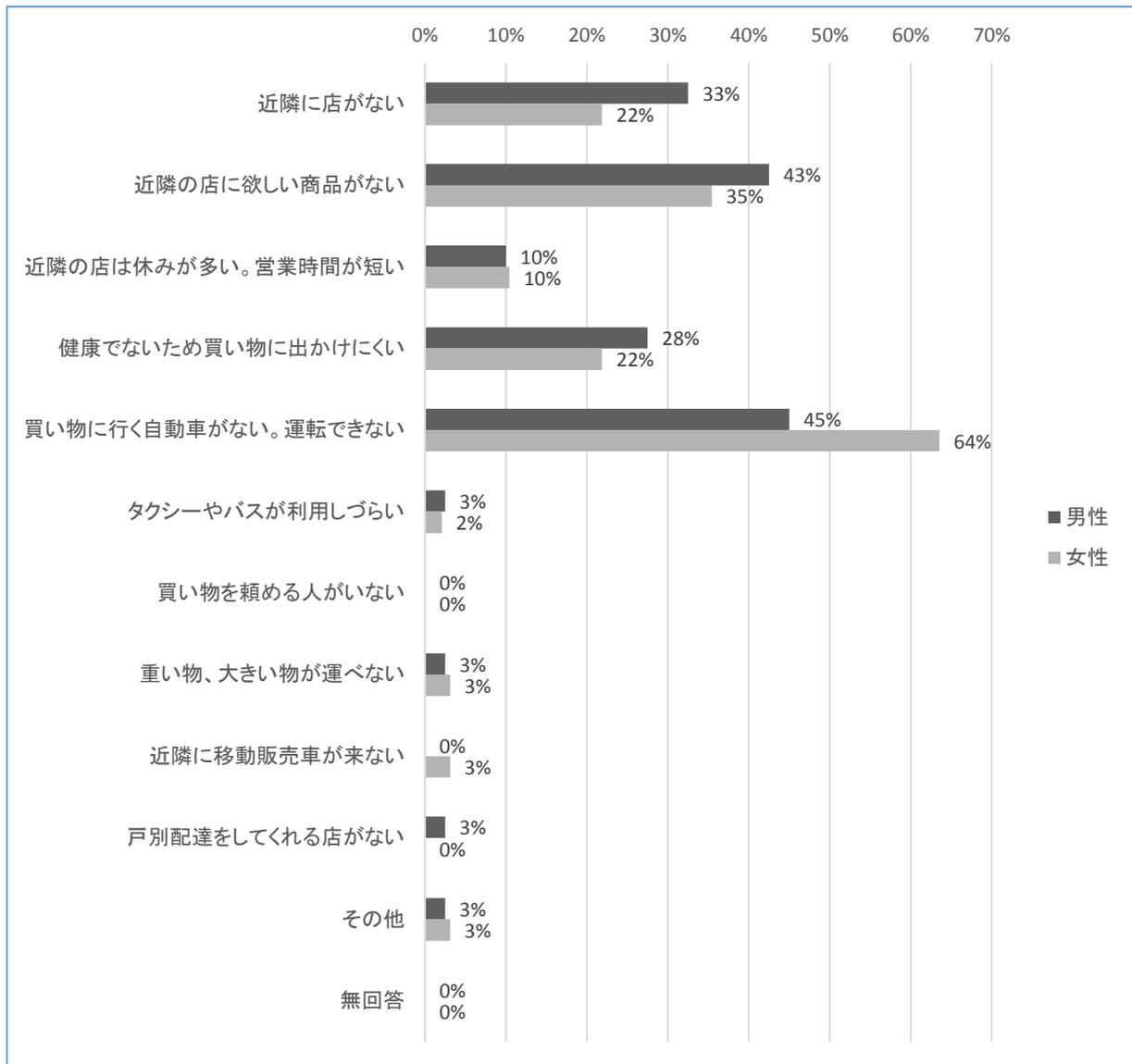


➤ 困っている理由

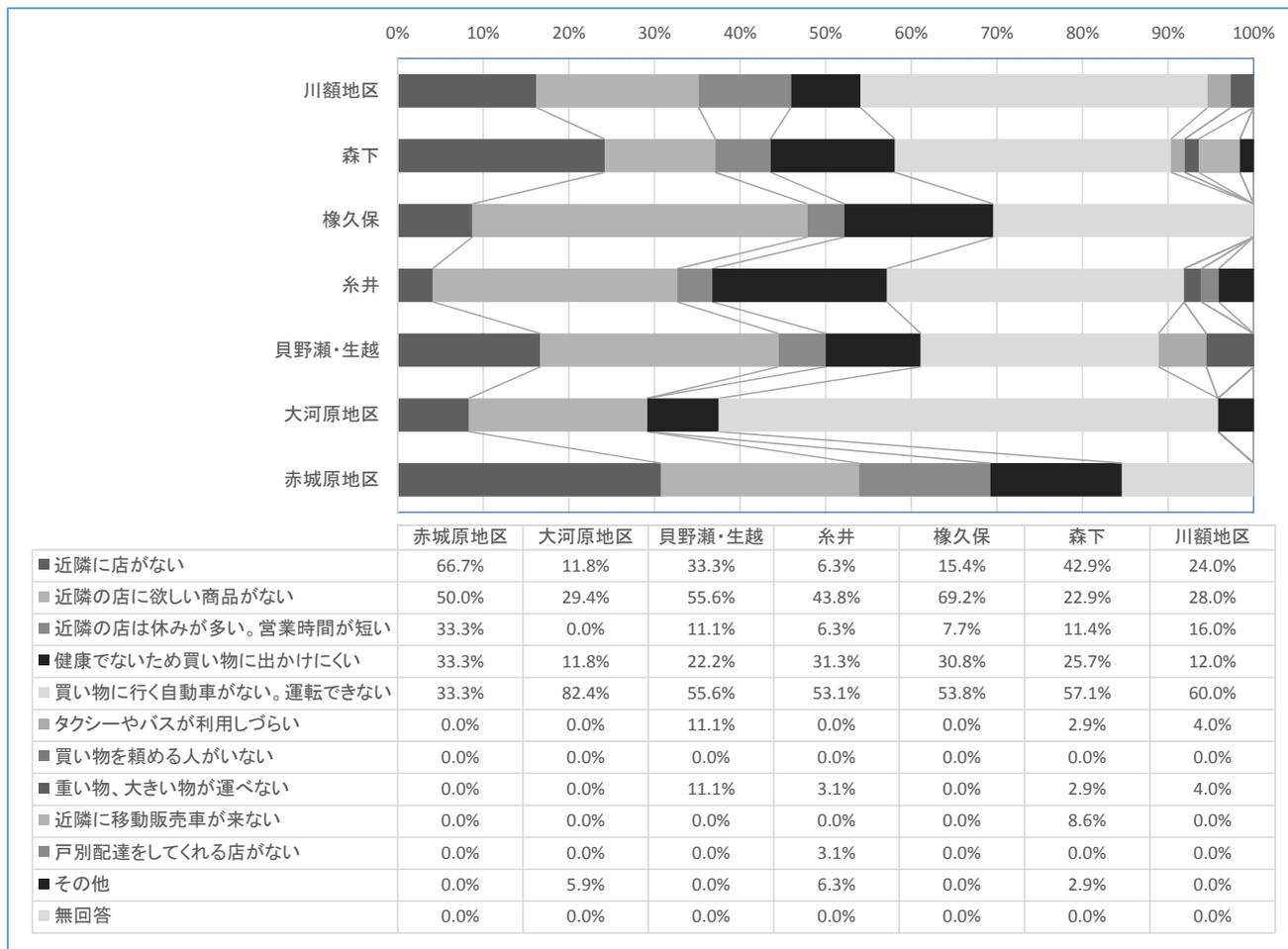
「買い物に行く自動車がない。運転できない」が58%と高く、次いで、「近隣の店に欲しい商品がない」が37%、「近隣に店がない」が25%、「健康でないため買い物に出かけにくい」が23%となっている。年齢別では、「買い物に行く自動車がない。運転できない」は年齢とともに回答率が上昇していた。他方、「近隣の店に欲しい商品がない」、「近隣の店は休みが多い。営業時間が短い」及び「健康でないため買い物に出かけにくい」は若年層の方が高くなっていた。



性差を見ると、女性は、「買い物に行く自動車がない。運転できない」の回答が多く、「近隣に店がない」、「近隣の店に欲しい商品がない」、「健康でないため買い物に出かけにくい」は男性の回答が多いことが分かった。



地区別では、「買い物に行く自動車がない。運転できない」の回答は「大河原地区」に、「近隣に店がない」は「赤城原地区」に、「近隣の店に欲しい商品がない」は「椽久保地区」に多く、バラツキが認められる。

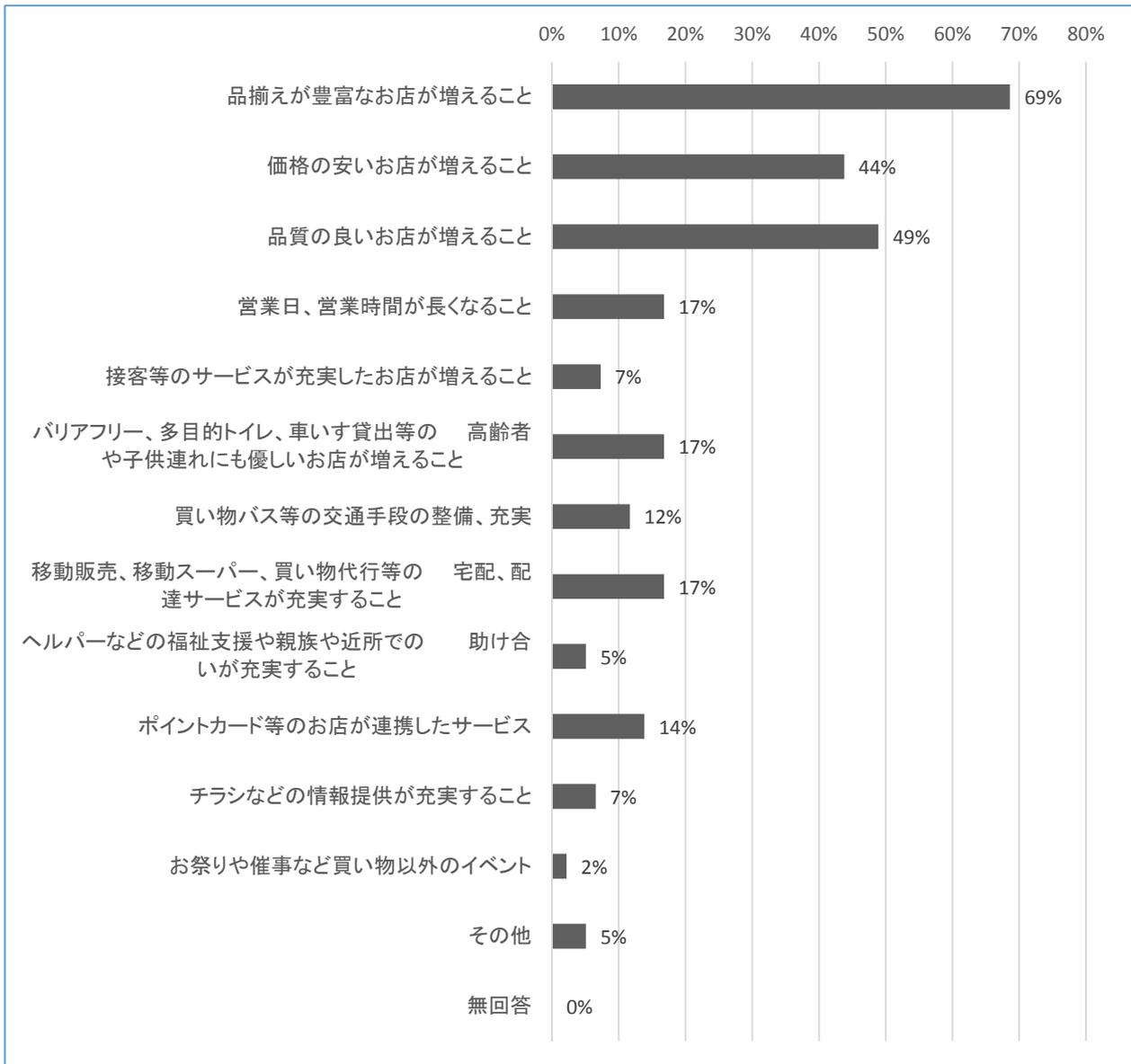


なお、この回答に対しては以下のコメントが寄せられている。

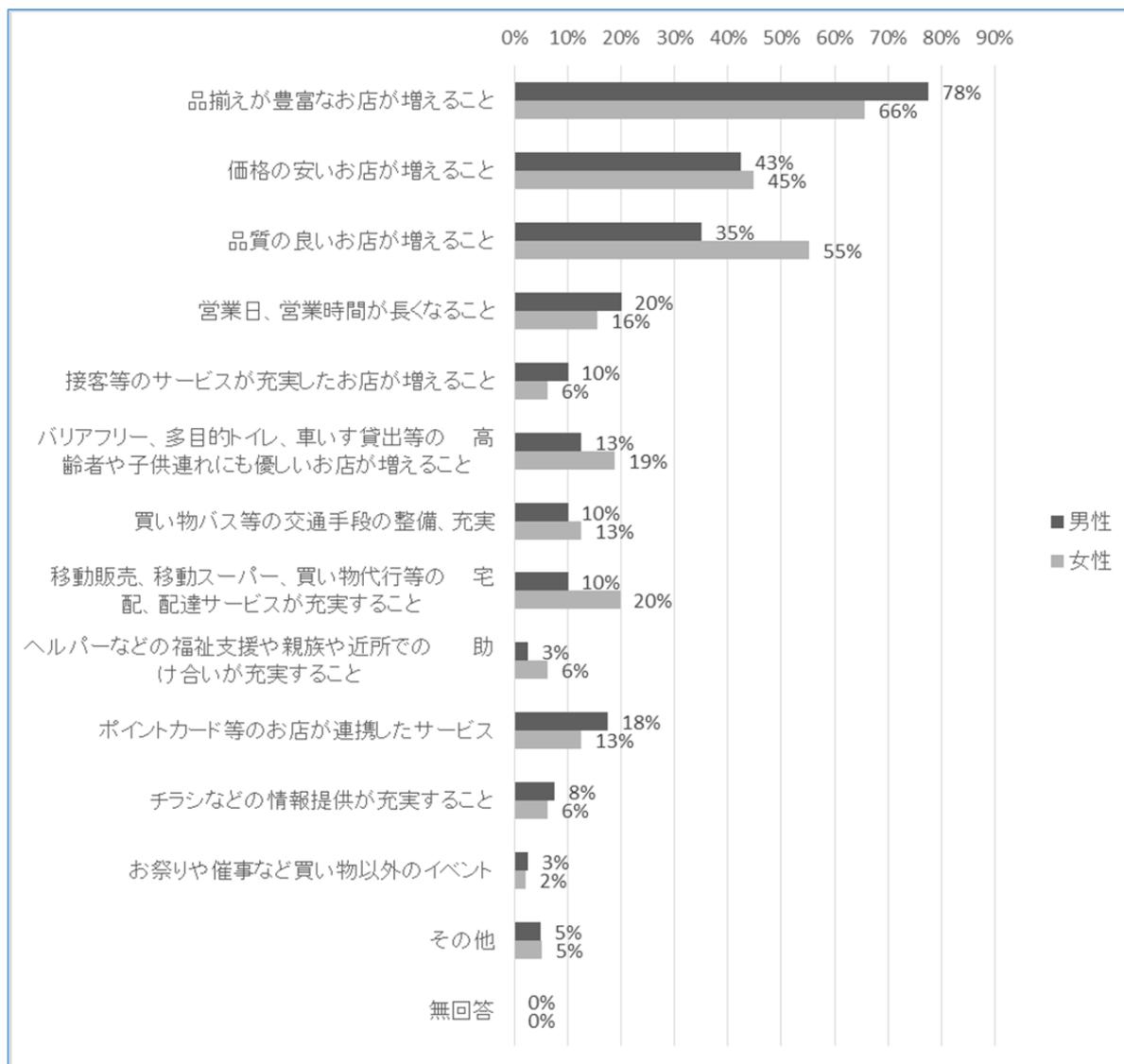
- ✓ 自動車が運転できるので困っていません。（50～60 歳代・女性・その他）
- ✓ 今のところ困っていません。（70～80 歳代・女性・一人暮らし）
- ✓ 品物の数が少ない（50～60 歳代・女性・二世帯）
- ✓ 駐車場が整備されていないので、車を停めにくい。（30～40 歳代・女性・二世帯）
- ✓ スーパーの場合、重いものが運べない（70～80 歳代・女性・二世帯）
- ✓ 森下中組には歩いて買い物に行ける店がなく本当に困っている。（50～60 歳代・女性・二世帯）
- ✓ 車でしか買い物に行けない（30～40 歳代・男性・三世帯以上）

➤ 改善要望

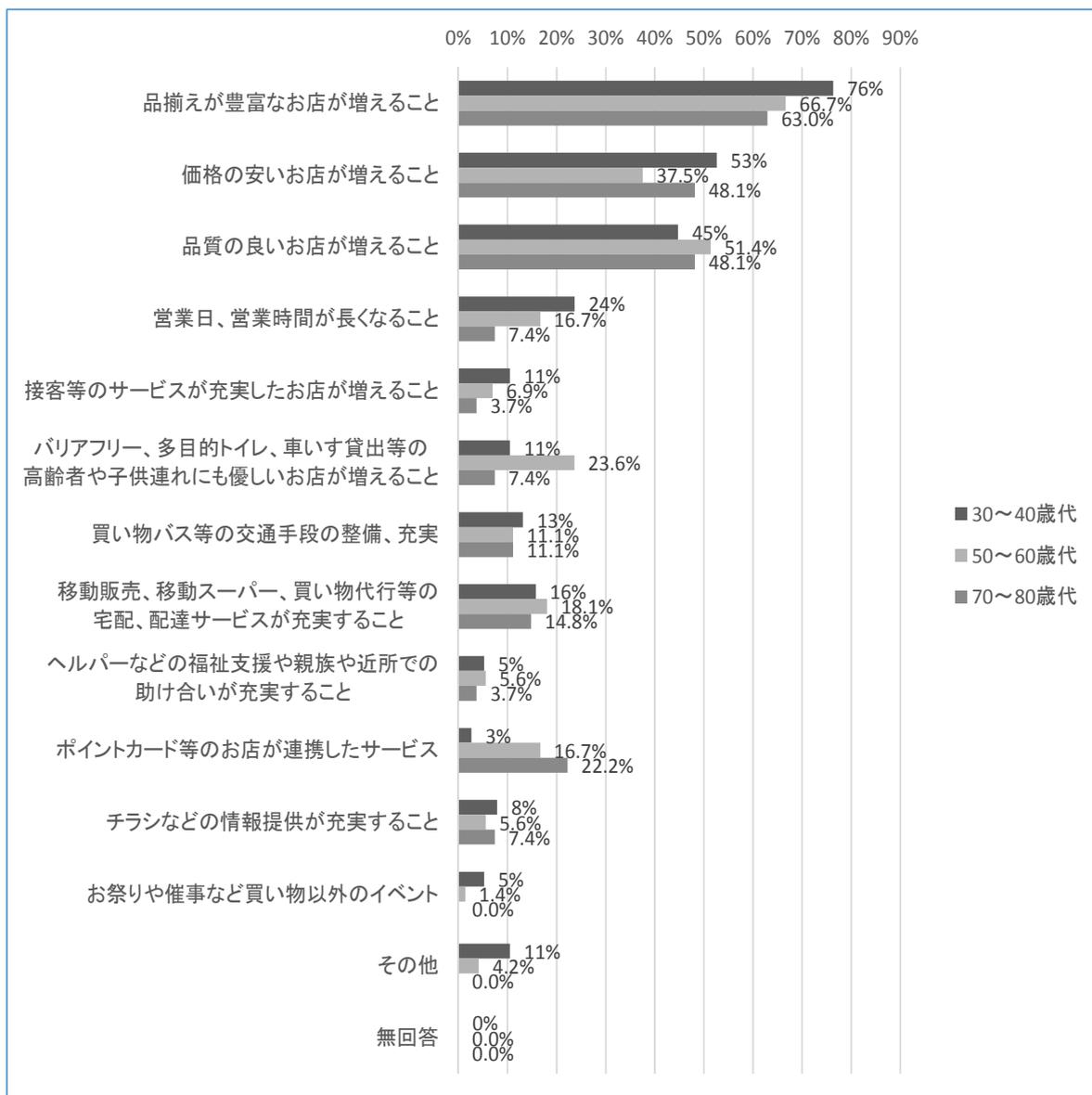
改善要望については、「品揃えが豊富な店が増えること」が69%と高く、次いで、「品質の良い店が増えること」が49%、「価格の安い店が増えること」が44%と続いている。



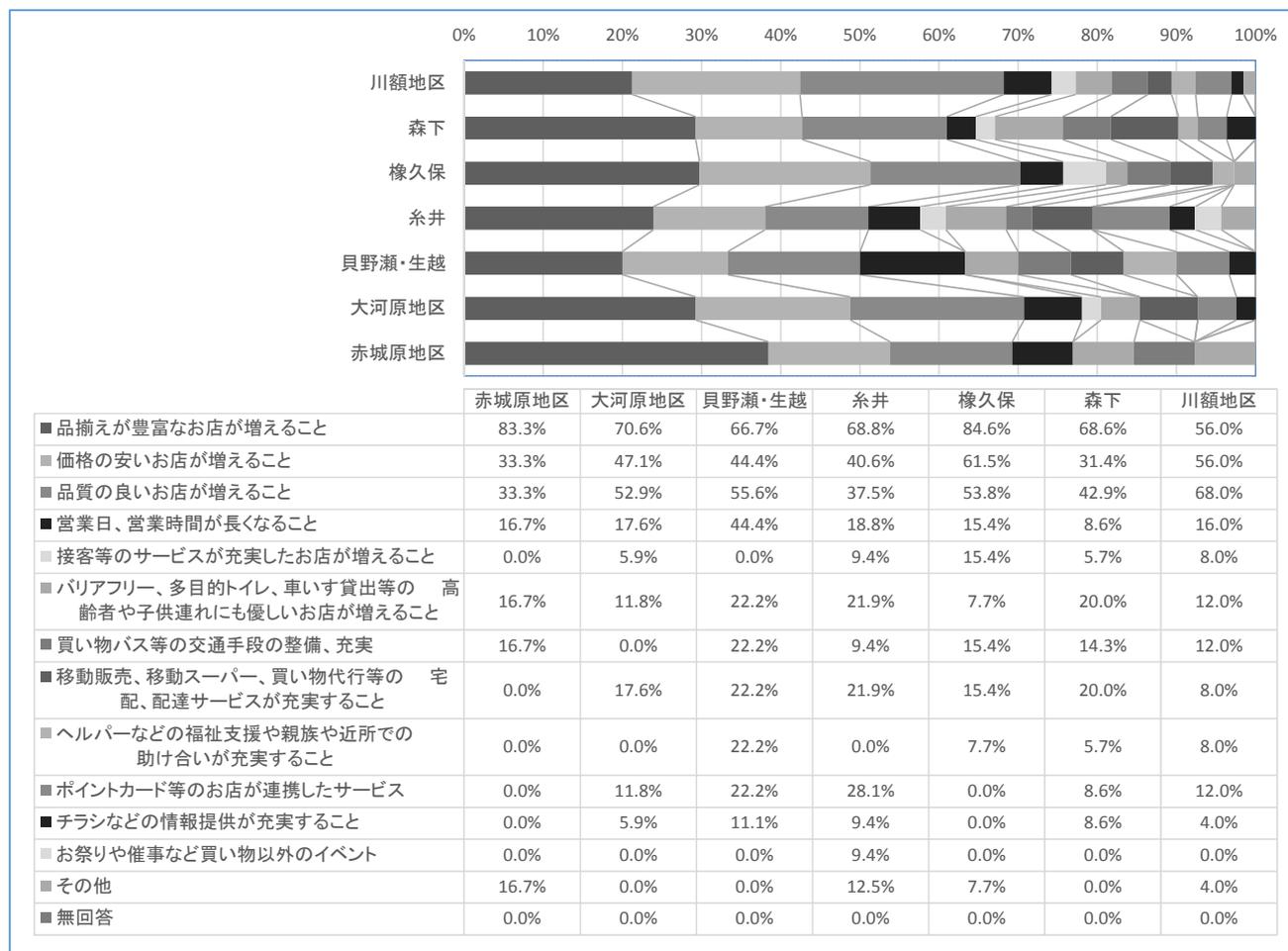
性差を見ると、「品揃えが豊富な店が増えること」については男性の回答率が高く、「品質の良いお店が増えること」、「価格の安いお店が増えること」及び「移動販売、移動スーパー、買い物代行等の宅配、配達サービスが充実すること」は女性の回答率が高かった。



年齢別に見ると、50～60歳代は他の年代に比べて「価格の安いお店が増えること」は低いが、「バリアフリー、多目的トイレ、車いす貸出等の 高齢者や子供連れにも優しいお店が増えること」が高くなっていることが認められる。



地区別に見ると、「品揃えが豊富なお店が増えること」は赤城原地区が最も多いが、全体的に地域別では回答が類似している。

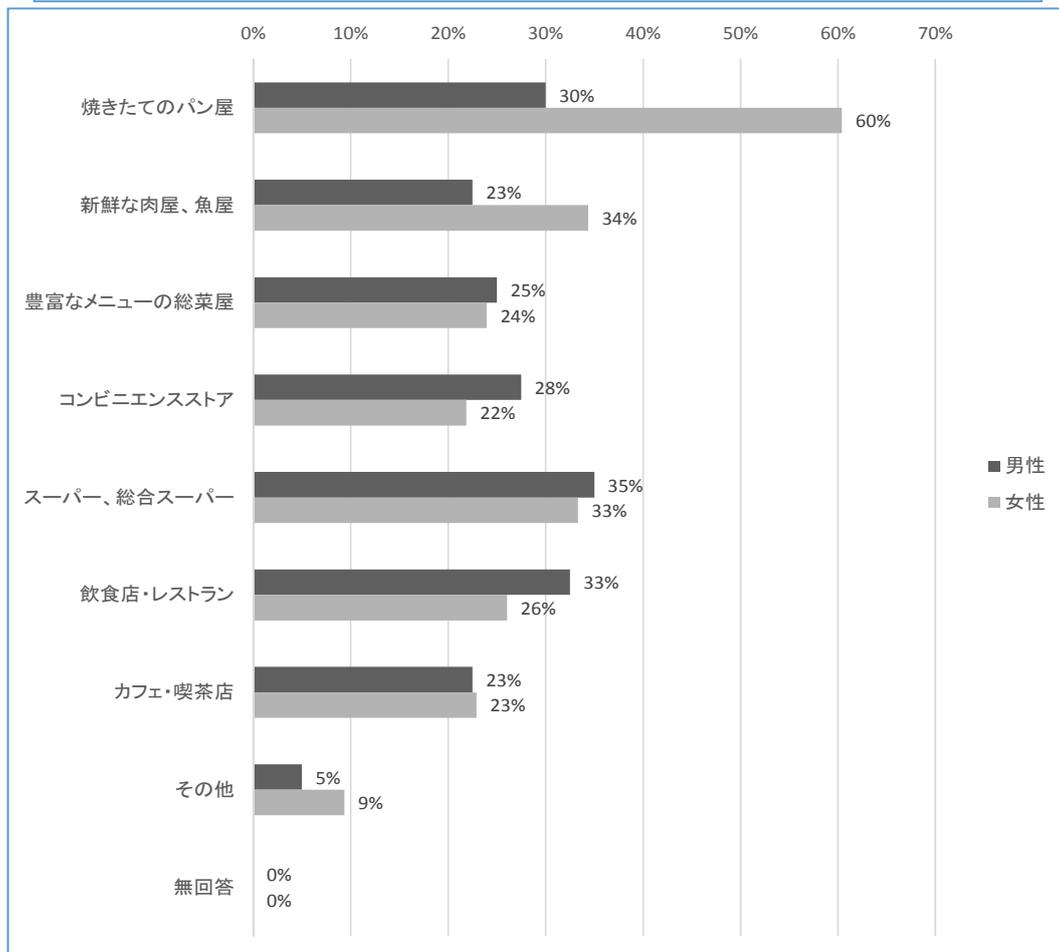
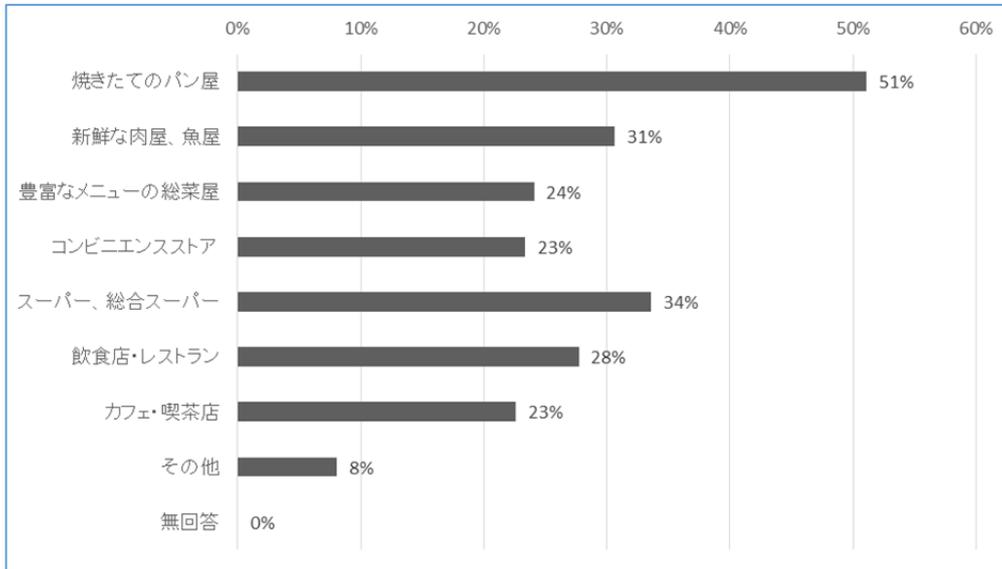


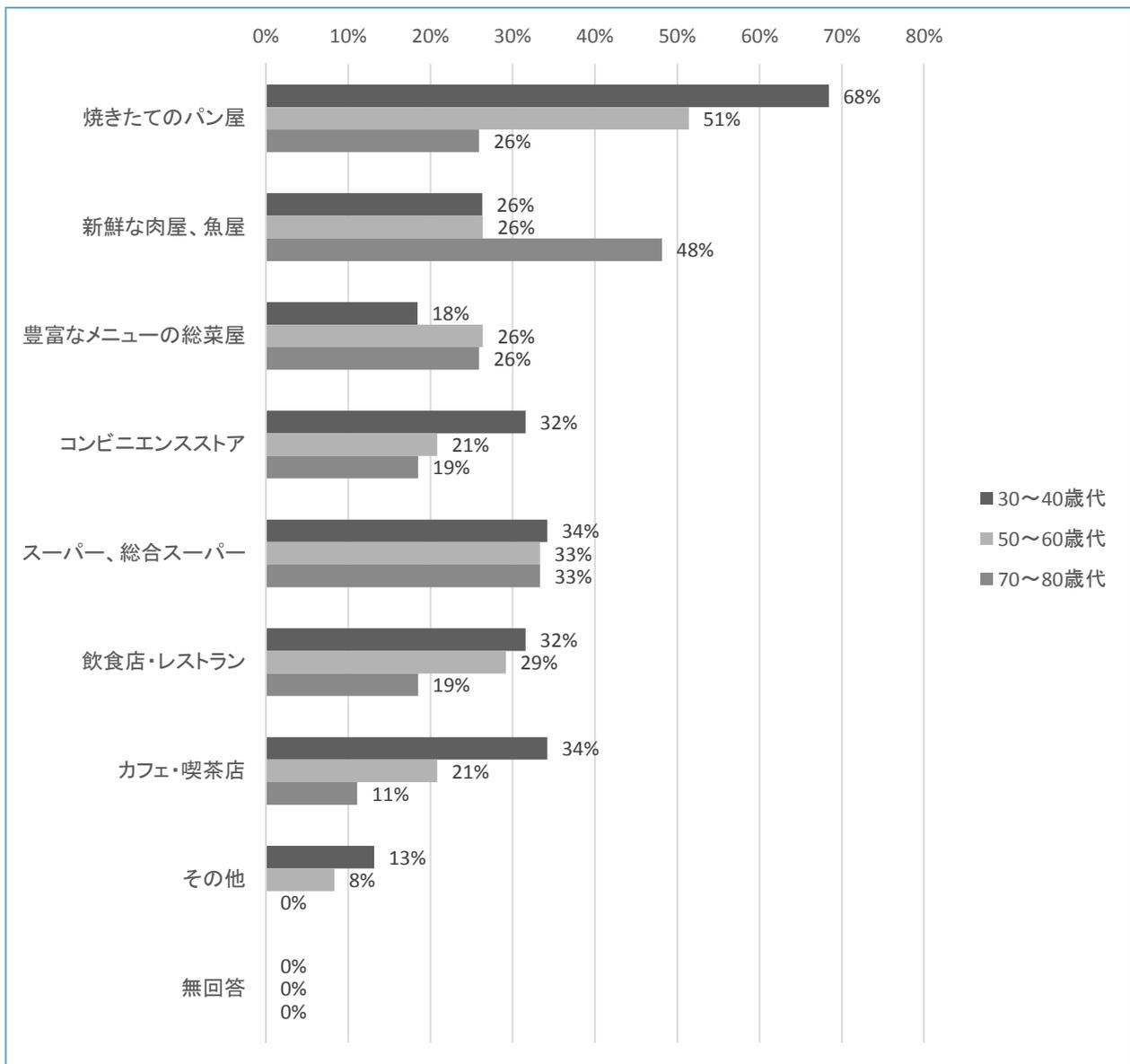
なお、この回答に対しては以下のようなコメントが寄せられている。

- ✓ 広い駐車場のスペース (30~40 歳代・女性・二世帯)
- ✓ 駐車場が狭い (50~60 歳代・女性・三世帯以上)
- ✓ (7. 買い物バス等の交通手段の整備、充実)に通ずるかもしれませんが、車で利用者が多数いると思うので、駐車環境を整えて欲しい。(30~40 歳代・女性・二世帯)
- ✓ 今は車があるので自由に出かけられるが、近所には車をもたない人もいて前は、JCO-OP など利用していたようですが、今はとっても困っているだろうと思う。私も年をとって車が利用できなくなったらバス、重い荷物を背負っては大変だと思う。昔はちょっとしたものは歩いていける店が5~6軒あったが、今は皆無。(50~60 歳代・女性・一人暮らし)
- ✓ 品質の良い物、新商品が良い (70~80 歳代・女性・二世帯)
- ✓ 村内(商工会)ポイントカードを作って欲しい (30~40 歳代・男性・二世帯)
- ✓ 村にもっとコンビニがほしいです。(30~40 歳代・男性・二世帯)
- ✓ あそべる道の駅 (50~60 歳代・女性・夫婦のみ)

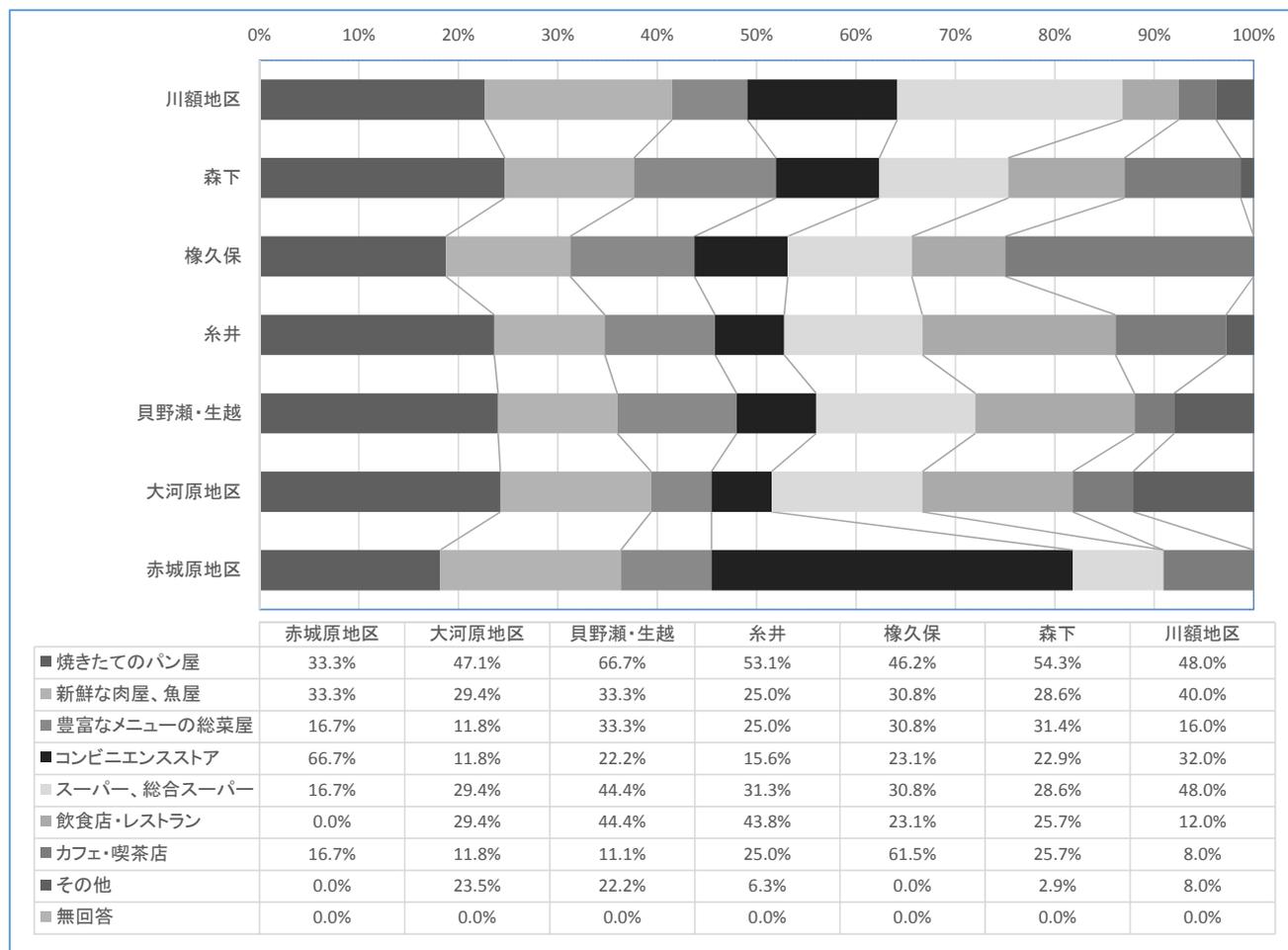
➤ あったら良いと思う店

「焼きたてのパン屋」が51%と過半数の支持を得ており、次いで、「スーパー、総合スーパー」が34%、「新鮮な肉屋、魚屋」が31%と続いた。また、性差を見ると、「焼きたてのパン屋」及び「新鮮な肉屋、魚屋」は女性の回答率が高かった。一方「コンビニエンスストア」及び「飲食店・レストラン」は男性の回答率が高かった。年代別に見ると、「焼きたてのパン屋」及び「カフェ・喫茶店」は若年層の回答率が高く、「新鮮な肉屋、魚屋」は70～80歳代からの要望が高いことが分かった。





地域別で見ると、赤城原地区で「コンビニエンスストア」の回答率が高く、椽久保で「カフェ・喫茶店」の回答率が高かった。「飲食店・レストラン」は糸井及び貝野瀬・生越の回答率が高かった。

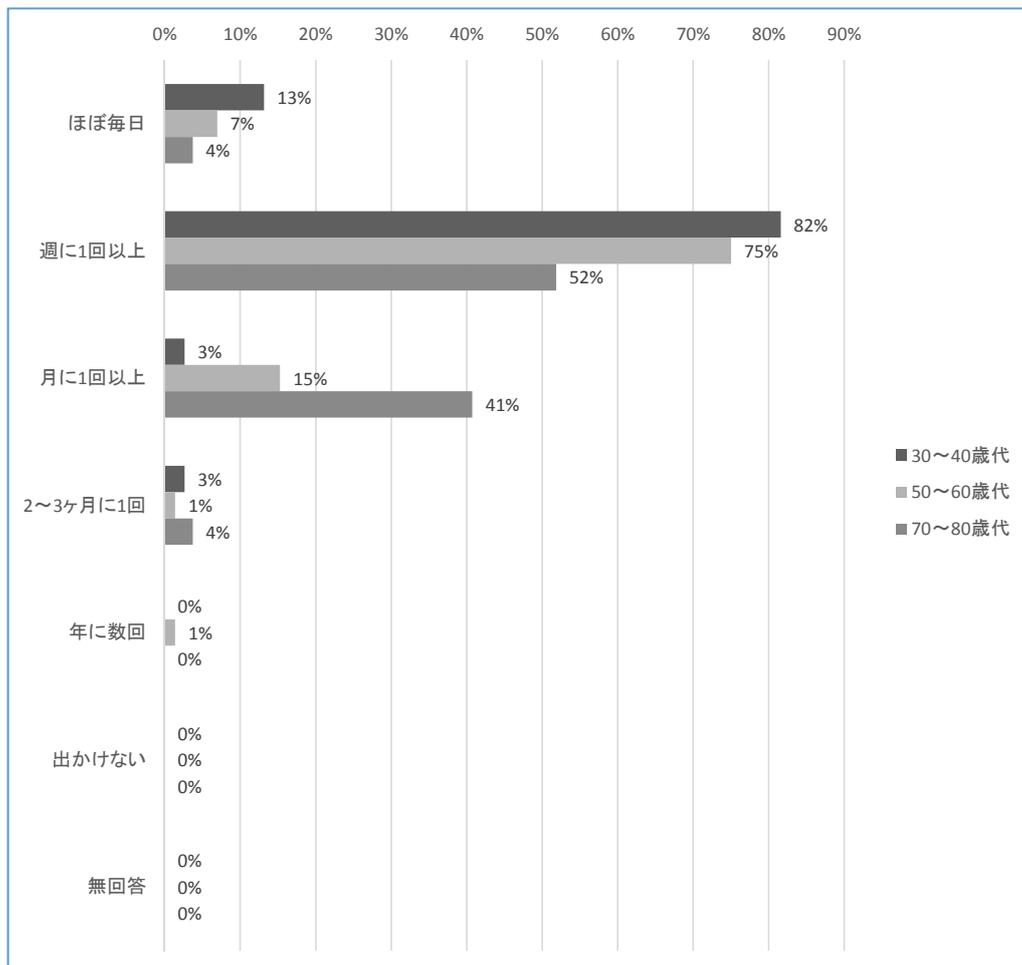
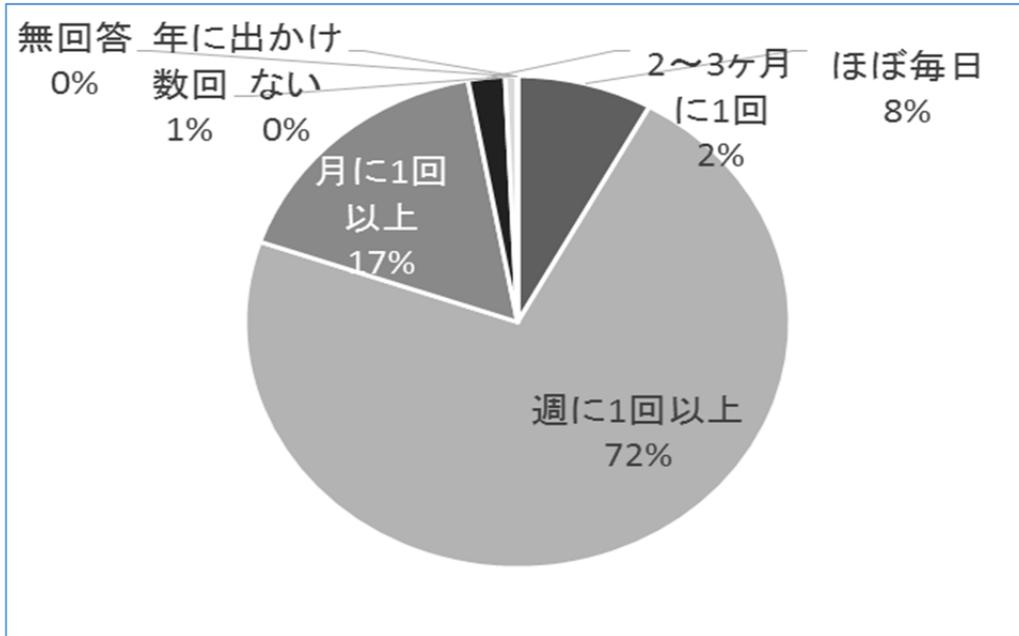


なお、この回答に対しては以下のコメントが寄せられている。

- ✓ 薬局（50～60歳代・女性・その他）
- ✓ 薬（30～40歳代・女性・二世帯）
- ✓ ドラッグストア（50～60歳代・女性・二世帯）
- ✓ ドラッグストア（30～40歳代・女性・二世帯）
- ✓ ドッグカフェ（30～40歳代・女性・二世帯）
- ✓ 本屋さん（50～60歳代・女性・二世帯）
- ✓ 本屋（50～60歳代・男性・二世帯）
- ✓ 書店（30～40歳代・女性・二世帯）
- ✓ 出前をしてくれるお弁当屋（30～40歳代・男性・三世帯以上）
- ✓ 広い駐車場のコンビニエンスストア（50～60歳代・女性・三世帯以上）
- ✓ コインランドリー（50～60歳代・女性・三世帯以上）
- ✓ （スーパー、総合スーパーを）森下中組に（50～60歳代・女性・二世帯）

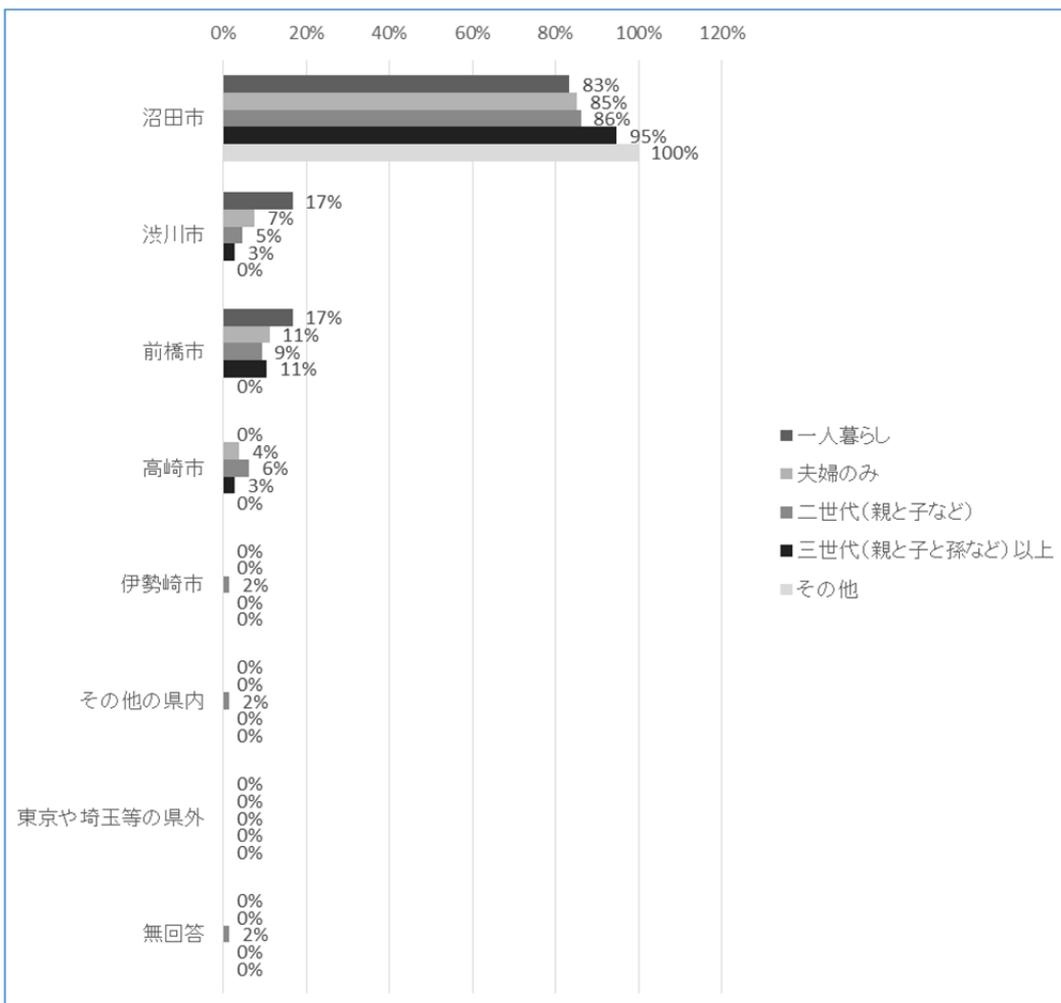
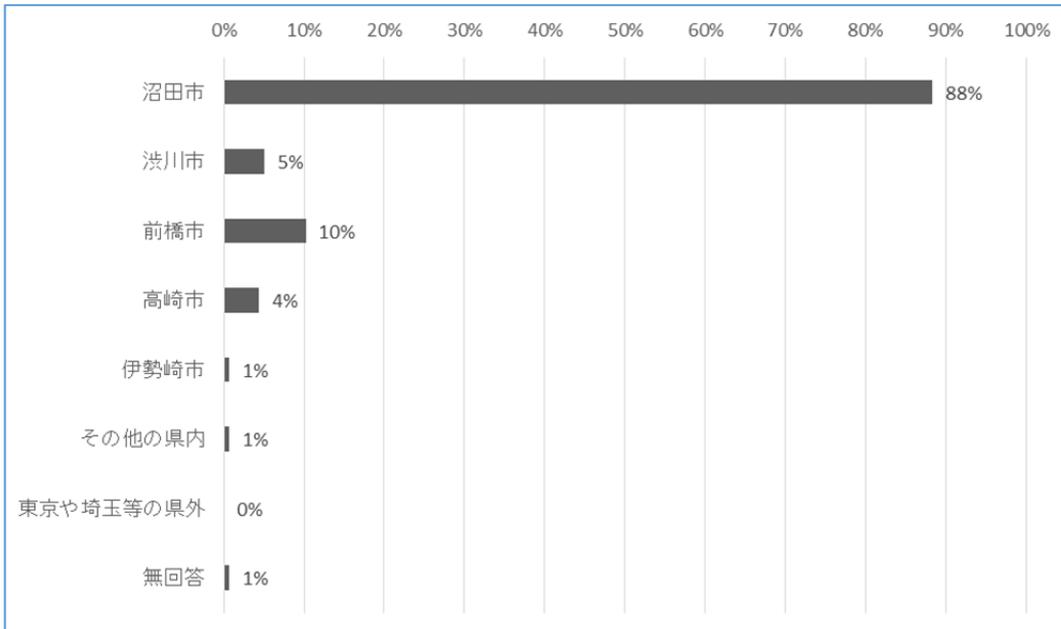
➤ 地域外への買い物動向

村外への買い物の頻度について尋ねた結果、「週に1回以上」が72%と大半を占めており、次いで「月に1回以上」が17%、「ほぼ毎日」が8%となった。年齢別で見ると、若年層ほど高頻度であり、年齢とともに頻度が低下していることが分かる。



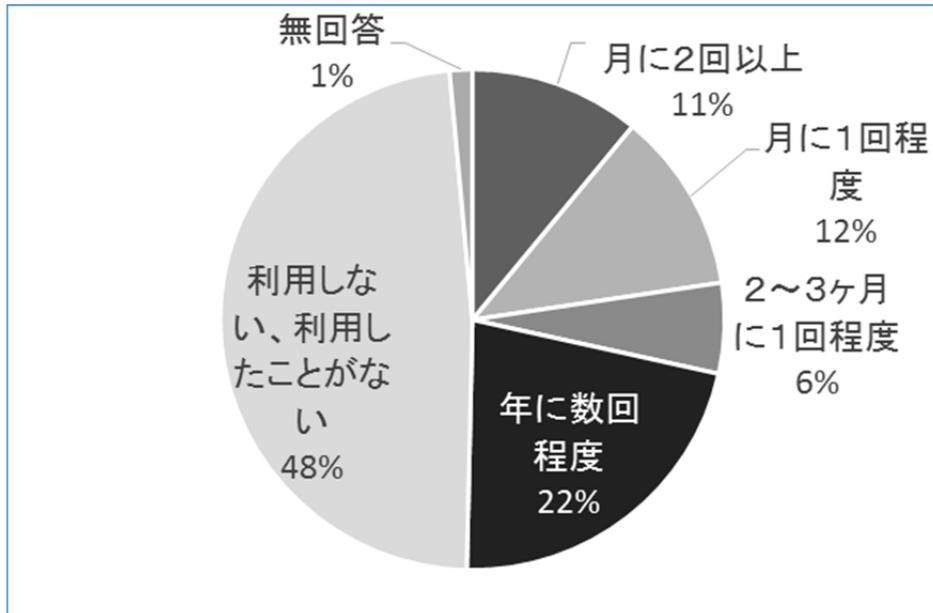
➤ 主な行き先

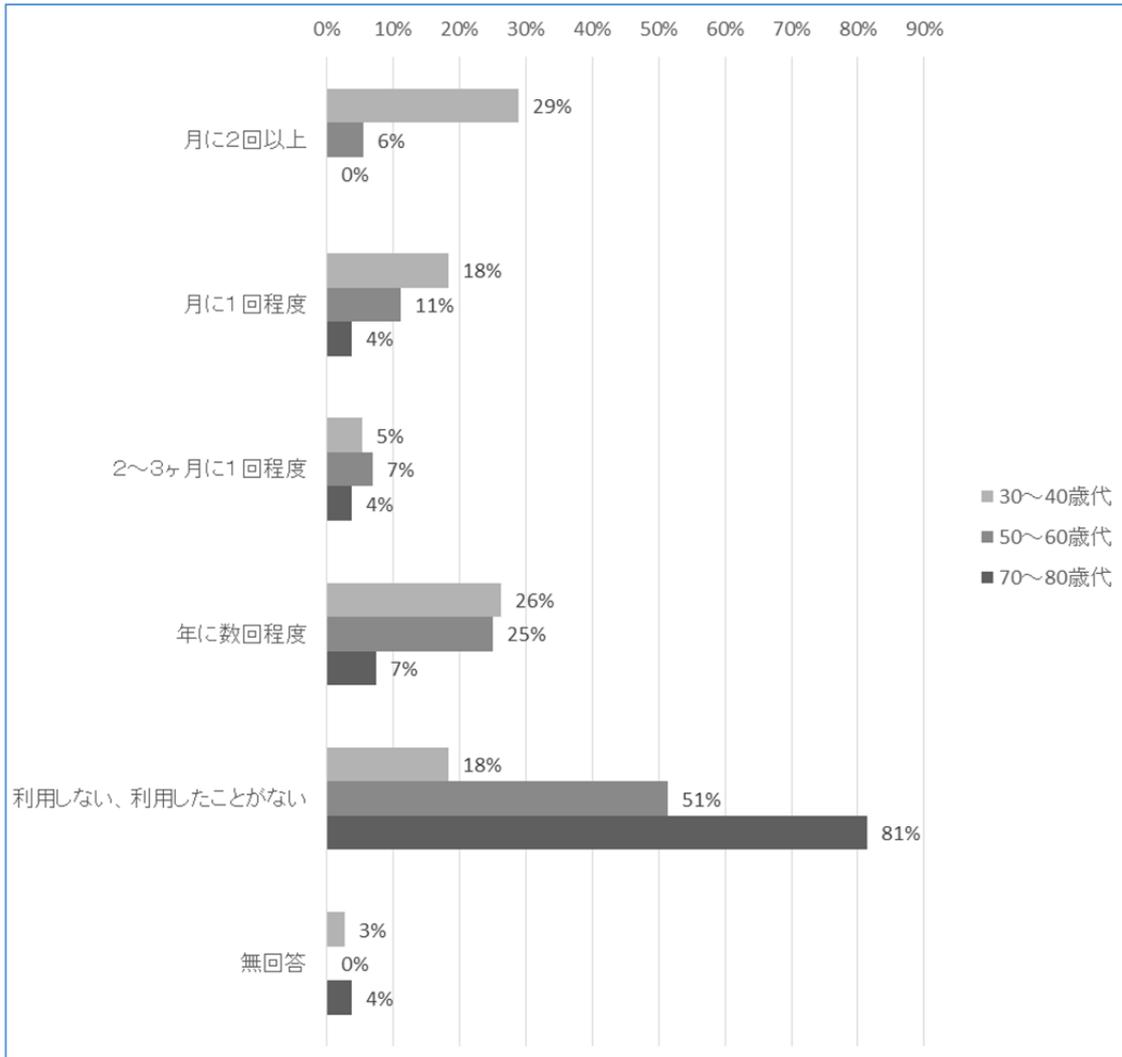
「沼田市」が88%と圧倒的に多く、次いで、「前橋市」が10%と続いている。世帯別に見ると、「一人暮らし」が渋川市と前橋市の回答が高くなっていることが特徴として認められる。



➤ インターネットの利用状況

「利用しない、利用したことがない」が半数近くの48%であり、次いで、「年に数回程度」が22%、「月に1回程度」が12%、「月に2回以上」が11%と続いていた。年齢別で見ると、年齢が上がるにつれて「利用しない、利用したことがない」との回答率が上昇していることが分かる。





➤ 村内の商工業者に対する意見・要望（原文のまま記載）

- ✓ 品物をたくさん新鮮なもの新しいものがほしいです。（70～80 歳代・女性・二世代）
- ✓ もう少し鮮度の良い物を置いて欲しい。（30～40 歳代・男性・二世代）
- ✓ 役場前のコンビニは、駐車場も少ないし出入りにくく、信号もどちらを見てでて良いか迷う時があり、利用したい気持ちはあるが現状はほぼ利用していない。（30～40 歳代・女性・三世代以上）
- ✓ 駐車場にゆとりのある店が欲しいです。年を取ると特に森下地区に商店がないのでお願いしたいです（70～80 歳代・女性・一人暮らし）
- ✓ 村内唯一のスーパーは価格も安く品揃えも揃っていて満足しています。価格の安い惣菜や弁当はとても良くできていて沼田市内のスーパーよりも誇れる所で大変重宝しています。時間が夜 3 0 分位遅く迄開いていると便利だと思います。（50～60 歳代・男性・夫婦のみ）
- ✓ 村外の大規模店に客をもっていかれながらも続けていてもらえるのはありがたいと思います。でもまわりに店のほとんどない地域では実態を知ることができないのも事実です。（50～60 歳代・女性・一人暮らし）
- ✓ 昭和村は野菜の産地直売所があり新鮮な野菜が買ってとても良いと思います。白菜館はよく行きますが売り場面積がせまいです。とくに土日はとても混雑します。（70～80 歳代・女性・夫婦のみ）
- ✓ 小売業の充実（70～80 歳代・女性・夫婦のみ）
- ✓ 出前してくれる食堂が出来たら良いと思います。（50～60 歳代・女性・三世代以上）
- ✓ 車椅子でいけるような広いお店が欲しいです。駐車場も広めにとってもらえるところがあるとありがたいです。村内だと調子が悪くて車椅子で行きたい時に行けるお店がないので買い物を頼まないと行けなくて不便です。（30～40 歳代・女性・二世代）
- ✓ 高齢者用の休憩所の設置（雨よけできる場所）（50～60 歳代・男性・夫婦のみ）
- ✓ 近場の店が廃業してしまい、不便です。（50～60 歳代・女性・二世代）
- ✓ ベイシア昭和店を作って欲しいです。（30～40 歳代・男性・二世代）
- ✓ スーパーが無理ならばせめてコンビニエンスストアが欲しいです。南地区にはお店が無くなってしまったのでこれから歳を取ってからが大変です。（70～80 歳代・女性・夫婦のみ）
- ✓ 買い物は車で行く為、5 分も 1 0 分もかわりが無い為、品揃えと 1 ケ所で色々買い物が出来る所を選ぶ。車により時間の短縮が出来るので、市内、量販店に行く事が多い。（50～60 歳代・女性・三世代以上）
- ✓ 南部の所にもコンビニがあつたらいいと思います。（50～60 歳代・女性・三世代以上）
- ✓ 南地区に是非コンビニの開店を強く希望します（50～60 歳代・男性・三世代以上）
- ✓ 森下方面に全くお店がなくなってしまったので、ちょっとした日常品の買い物が出来るコンビニエンスストアが出来れば子供から高齢者まで助かると思います。（50～60 歳代・男性・二世代）
- ✓ 森下地区に店が欲しい（50～60 歳代・女性・一人暮らし）
- ✓ 森下地域に商店がないので、生活用品などが買える店を作ってほしい。（30～40 歳代・女性・三世代以上）
- ✓ 森下地域にコンビニが出来ないのはどうしてなのか。利用者が少ないとは思えないが。（70～80 歳代・男性・夫婦のみ）
- ✓ 旧久呂保農協付近に店を作って欲しい。地域の車に乗れない人達はとても不便な生活をしていると思う（50～60 歳代・女性・三世代以上）
- ✓ 旧久呂保地区スペーススーパーが開設されたら有難いです。（70～80 歳代・男性・夫婦のみ）

- ✓ 接客等のサービスが沼田市や他の町に比べておとると思う。(50～60 歳代・男性・二世代)
- ✓ 接客マナーを知らない店員が多すぎる。(30～40 歳代・男性・二世代)
- ✓ 出掛ける為の交通手段のある人は、沼田が近いので特に問題はないと思うが、手段の無い人、出かけられない人は特に困ると思う。これから高齢化がまだ進むと思います。ご用聞きのような支援が考えられれば良いかなとも思います。(50～60 歳代・女性・夫婦のみ)
- ✓ 自動車の運転が出来ないので、せめて移動販売車で来てもらえるとも助かります。JA が空きになっているので何かしらに利用してもらいたいです。(70～80 歳代・女性・二世代)
- ✓ 高崎市でやっていますが、高齢者向けの移動スーパー等があってもよいのでは(70～80 歳代・男性・夫婦のみ)
- ✓ 近所に 1 人住まいの高齢者が(80 才以上) 何人かいますが、皆足が悪く車バスを利用して買い物に出かけます。重い物は近所の人と行って助けて貰っているとのこと。特に男性の人は惣菜類を利用しているとの事です。(70～80 歳代・女性・夫婦のみ)
- ✓ 近い所へ徒歩で買い物のできる村の住民が経営する店ができれば良いと思います。(50～60 歳代・女性・夫婦のみ)
- ✓ 昭和村の主産業である農業と連携し合える商工会であってほしいと思います(50～60 歳代・女性・三世代以上)
- ✓ 商工業者の方はどのような職業の方の集まりでしょうか？(30～40 歳代・男性・三世代以上)
- ✓ 以前村内で使用する商品券があったが、使用できる(自分が) 店がなく、利用性があまりなかった。村外でも使えるのであれば良いのですが…。(50～60 歳代・女性・二世代)
- ✓ プレミアム付商品券の発行などを行政に働きかけて頂きたい(50～60 歳代・女性・夫婦のみ)
- ✓ スタンプラリーのように、いろんな店舗でもらえるポイントのようなものがあると良いと思います。小さい頃は奉仕券として、たまるいろいろな店舗で商品と交換できたり、割引されたりして、ためていたのを覚えています。安いお店もよいですが、奉仕券がたまる方がよいと思う時もありました。年に一度商工会の福引もありました。奉仕券同様、ためてくじが引けるのを楽しみにしていました。ティッシュや油などはずれてもけっこういいものをくれたので、がんばってためていたのを覚えています。とてもなつかしいです。(30～40 歳代・女性・二世代)
- ✓ これからも、村内の行事に積極的に参加を続けて欲しいです。(秋祭り、マラソン大会、自転車の大会など)
(50～60 歳代・男性・二世代)
- ✓ 良いと思います。(70～80 歳代・女性・一人暮らし)
- ✓ 今のところ、特になし(50～60 歳代・女性・その他)

➤ 商工会に対する意見・要望（原文のまま記載）

- ✓ 利根、沼田商工会を1つにする事！花火、お祭（天ぐみこしくだらない）かつぐ人もいないため廃止せよ。時代によっていかなければだめです。（30～40 歳代・男性・二世代）
- ✓ 南地区は買い物難民になっていると思います。移動販売もしくはコンビニの設置のため真剣に取り組んで頂きたい（50～60 歳代・男性・三世代以上）
- ✓ 特に問3のアンケート結果は村民の声として商工業者が実践するよう指導お願いします。（50～60 歳代・男性・夫婦のみ）
- ✓ 男性の人も用事ついでに買い物を頼まれて利用する機会があります。（70～80 歳代・女性・夫婦のみ）
- ✓ 村内は駐車場と、方向的所でコメリ、7. 1 1、スーパーこいけには行く事があるが、他はほとんど行きません。（50～60 歳代・女性・三世代以上）
- ✓ 村内で使える商品券ですが、期限がありますが期限は無くしてほしいです。しまっていて期限が過ぎたらもったいないです。お金と一緒にですから。（50～60 歳代・女性・三世代以上）
- ✓ 村商品券を小売店でも購入できると助かる。（50～60 歳代・女性・三世代以上）
- ✓ 先ほどの間にも書きましたが、村内共通のポイントカード（スタンプカード的な）を作って村内業者の活性化と利用率の向上になると思います。（30～40 歳代・男性・二世代）
- ✓ 接客マナー講習をした方がよい。（30～40 歳代・男性・二世代）
- ✓ 青空マルシェみたいなものやフリーマーケットなど企画してみてもどうでしょうか？（30～40 歳代・女性・二世代）
- ✓ 森下地区ですが、買い物をする店がなく不便です。JA があった建物などに店が入って欲しい（30～40 歳代・女性・二世代）
- ✓ 昭和村内に問3④のような店を望むのはムリでしょう。やっていけないと思う。でも昔は歩いていける距離にお米・車・とこや・よろず扱っている店 etc. があってそれで足りていた。情勢がかわったので仕方ないと思うけど、（前にも書いたが）毎日の食材歩いて買いに行ける店が欲しいなあと思う。（50～60 歳代・女性・一人暮らし）
- ✓ 昭和村はお祭りや催事が多いので、子供達も楽しく参加できます。引き続き宜しくお願い致します。（30～40 歳代・女性・二世代）
- ✓ 少数精鋭のなか、これからの活躍を期待します。（30～40 歳代・男性・二世代）
- ✓ 商品券の期限を失くしてもらいたい。（50～60 歳代・女性・二世代）
- ✓ 商工会の商品券期限がなければお祝などのお返しにとします。（50～60 歳代・女性・夫婦のみ）
- ✓ 商工会と村が連携をして、住みよい昭和村になったら良いと思う。昭和村で衣食住がじゅうじつすればもっと村がうるおい昭和村に住みたくなることを願います。（30～40 歳代・女性・二世代）
- ✓ 車椅子や足の不自由な人などの駐車場にあきらかに健康な人が車をとめていて買い物に行けない事がありました。車椅子用の駐車場を増やして欲しいです。駐車場のスペースを少し広めにとってもらえると車椅子用の駐車場でもとめられて乗り降りしやすいのでそうしてもらえると買い物に行きやすくなりうれしいですね。重たいものなどたくさん購入した時に配達してもらえるサービスがあるとバスや電車で買い物した時にも便利だと思います。（30～40 歳代・女性・二世代）
- ✓ 今は車が運転できますが車が運転できなくなった場合不安があります。バスなどを利用した場合買い物も半日仕事で行く事になるので心配しております。（50～60 歳代・男性・夫婦のみ）
- ✓ 現状維持で良いと思う（50～60 歳代・男性・二世代）
- ✓ 犬連れのガイドブックが出ている程、現在は犬も家族の一員と考えている家庭が多く、昭和村の周りの施設では

犬連れの客で賑わっている所が多い。(田園プラザなど) 緑豊かな昭和村で、そういった施設や店が無いのは残念。(30~40 歳代・女性・二世帯)

- ✓ 君ヶ原橋を渡りきった四つ角あたりにコンビニが出来れば駅へ向かう人、工業団地へ向かう人(仕事)、沼田へ向かう人等が利用し、利益に繋がると思います。(30~40 歳代・女性・三世帯以上)
- ✓ 魚が少ないです。(70~80 歳代・女性・二世帯)
- ✓ 会員以外の人々との交流(70~80 歳代・女性・夫婦のみ)
- ✓ 移動スーパーで村内を週2回回る構想はいかがでしょうか。村にも支援してもらって行えば可能ではないでしょうか(50~60 歳代・女性・夫婦のみ)
- ✓ プレミアム商品券があった時は、村内での買い物が増えました。また発行してもらえるといいですね。(30~40 歳代・女性・二世帯)
- ✓ そこにしかないお店(こだわりがある、めずらしい)など、何かあると、もっと村全体が活性化されると思います。(以前あった角田製菓のシュークリームのような、口コミで広がるようなお店があればと思います)(30~40 歳代・女性・三世帯以上)
- ✓ これからも村の観光や農業の発展に知恵を出して欲しいです。(50~60 歳代・男性・二世帯)
- ✓ アンケートの結果を村民に知らせて商工の発展に役立ててほしいです。(70~80 歳代・女性・三世帯以上)

➤ アンケートの総括

◇ 村民の購買行動特性

アンケートを見ると、住民の買い物は、自動車を自らが運転できる、又は、運転できる人が身近にいることから、自動車により、主に沼田市内の大型店へ、週に一度、まとめ買いに行く姿がイメージできる結果となった。

そのため、現状においては、買い物には不便を感じていないことが読み取れる。これは60歳以降の高齢者でも同じ傾向であり、さらに一人暮らしのいわゆる“独居老人”の回答だけを抽出して見ても同様の結果であることから、現状においては“買い物難民”の存在を確認することはできないという結論になろう。

しかしながら、五年後、十年後という近い将来を見据えて、車椅子等での来店を想定した駐車場の整備などを求める声が見られることから、商工会としては、これらの取り組みを行う商店等に支援する必要性を強く感じる。

◇ 商工会に求められる今後の活動

商品券の有効期限の延長や撤廃を求める声については、利用者の保護を図るための『資金決済法』があることを周知するとともに、商品券、ポイントカード、福引きなどの催事等、これまで商工会の取り組みの中に、リピートや復活を求める声と連携しながら、どのように実施できるかを検討していかなくてはならない。

パン屋、総菜屋またコンビニ、移動スーパーを求める声が多いのは想定通りであった。このニーズをどのように解消していくかが、我々に与えられた課題である。商工会では、これまでとは異なる実践的な起業・創業を支援するための創業塾を開催することを予定している。

また、住民の買い物を支援するために、本来であれば、村内の商工業者をとりまとめて「移動スーパー」や「御用聞き」を実施することも視野に入れるべきかもしれないが、ビジネスの観点から見ると実施が難し

いのが実情かもしれない。これを解決するためにも、住民の利用度が低いインターネットの活用を推進し、地域の商店やサービス業とオンラインでつながるような生活スタイルを提案していくことも検討していきたい。

◇ 次回調査への課題

最後に、今回のアンケートを通じて、不足していると感じた項目について記載しておく。

イ) 村内の小売店の分布地図

現状の小売店の立地に関する視点が不足している。小売店の立地と住民の居住地に絡めながらアンケート分析することができれば、より詳細な地区における消費者の課題や問題点が把握でき、ひいては、新たなビジネスシーズが生じる可能性も期待できる。

ロ) 村外での買い物先、インターネットによる購買商品の詳細

村外での購買行動の詳細が不足している。どのような店で、どのような物やサービスを購入しているのかを知ることができれば、今後、村内に必要な新たな商品・サービスは何かを具体的にイメージすることができ、誘致計画に発展させることも期待できる。

ハ) インターネットによる購買商品

村外での購買行動の詳細が不足している。どのような店で、どのような物を購入しているのかを知ることができれば、今後、村内に必要な新たな商業は何かを具体的にイメージすることができ、大手資本等の誘致計画に発展させることも期待できる。